

開館20年記念誌

松浦武四郎記念館
(小野江コミュニティセンター)

20年のあゆみ



開館当時の松浦武四郎記念館

三重県松阪市 松浦武四郎記念館(小野江コミュニティセンター)

開館20年記念誌
松浦武四郎記念館
(小野江コミュニティセンター)

20年のあゆみ

館長あいさつ	3
松浦武四郎記念館（小野江コミュニティセンター）の開館まで	4
施設の概要	7
松浦武四郎記念館の収蔵資料と来歴	9
コスモス文化振興基金	13
入館者数の推移	14
20年の歩み 平成6年（1994）～平成26年（2014）	15
資料の保存管理・調査研究	32
展示活動	34
資料の利用状況	38
団体見学・職員派遣	39
博物館実習	40
松浦武四郎生誕190年等記念事業	41
松浦武四郎記念館を支える団体	44
松浦武四郎記念館の出版物	45
松浦武四郎記念館運営審議会・松浦武四郎誕生地整備検討委員会	47
歴代職員	48

開館20年を迎えて

平成6年7月3日に開館した松浦武四郎記念館と小野江コミュニティセンターが、このほど開館20年を迎え、「開館20年記念式典」を挙げる運びとなりました。これも偏に、皆様方より格別のご支援と格段のご指導を賜りましたおかげと存じ、衷心より厚く御礼申し上げます。

振り返れば20年前、旧三重県一志郡三雲町が、町勢を傾注していただく形で当館を建設されました。当時、黒宮哲之町長は、「松浦家よりご寄贈いただいた資料は、松浦家の家宝として受け継がれてきた貴重な物ばかりだ。記念館の建設で、三雲の偉人を若い人たちにも伝えていきたい。」と述べておられます。黒宮町長の「熱い思い」が、旧三雲町全体を揺り動かし、小野江コミュニティセンターを併設した松浦武四郎記念館が、華々しくその歴史を刻み始めたのであります。

当館では、平成20年に松浦武四郎に関する資料1,503点が、重要文化財（歴史資料）として一括指定を受け、平成22年には博物館法が定める「博物館」として登録されました。

開館以来、当館は三重県及び国に於いても重要な資料を収蔵し、将来に引き継いでいくという重大な責務を負ってきました。また、旧三雲町以来、「地域に根ざした記念館」を目指して、地域の皆様方と共に歩んで参りました。当館には、松浦武四郎翁の「歴史的業績」を学び、「人としての生き方」に触れることを目的に、多くの皆様方がお越しいただきます。とりわけ、幼稚園児から大学生までの学徒のご来館は、私共にとりましては、誠にありがたく、心より歓迎の意を表しているところでございます。

私共は、常に人びとが行き交い、人びとが集う、それこそ「学びの場」としての記念館を志向して参りました。

その意味において、同等の重みをもって併設されました小野江コミュニティセンターも、20年間、記念館と共に精力的な歩みを続けて参りました。地域の公民館である当センターは、旧三雲町当時から町内各公民館との連携を密にし、社会教育施設として地域の皆様方の思いや願いを大切にしたい講座やサークル、祭り等の諸行事を開催し、充実した公民館活動を展開して参りました。

今後も、私共は、併設に伴う諸々の課題を把握し、解決していくと共に、博物館としての松浦武四郎記念館と地域の公民館である小野江コミュニティセンターを、更に発展させ充実させる為の精進を重ねて参る所存でございます。

引き続き、皆様方の幾久しいご指導とご鞭撻を、切にお願い申し上げ、開館20年を迎えてのご挨拶といたします。

松浦武四郎記念館・小野江コミュニティセンター

館長 中野 恭^{たかし}

松浦武四郎記念館(小野江コミュニティセンター)の開館まで

昭和63年(1988)

2月 三雲町は、松浦武四郎の没後百年を記念して命日の2月10日に、町内の国道23号沿いに「松浦武四郎翁生誕の地」を案内する看板を設置。



9月 北海道開拓記念館で特別展「北への視角—松浦武四郎没後百年記念展」が開催。展示資料は415点で、松浦武四郎没後百年記念事業協賛会が協賛して行われる。

10月 三雲町文化祭において、「松浦武四郎遺品展」を開催。

11月 「松浦武四郎没後百周年記念講演会」が三雲町農業者トレーニングセンターで開催。作家の吉村昭氏が「歴史小説うらばなし」、武四郎研究家の谷澤尚一先生が「旅行文筆家としての武四郎」と題して講演。

この年から、三雲町の三重松浦家（松浦武四郎誕生地）にて松浦清氏と研究者が集まり、国の補助事業で松浦武四郎関係資料調査がスタート。調査員は、谷澤尚一氏（松浦武四郎研究家）、岡本勝氏（愛知教育大学教授）、佐々木利和氏（東京国立博物館学芸部考古課主任研究官）、佐藤貞夫氏（県立高等学校教諭）、大山晋吾氏（靖国神社遊蹴館部史料課員）の5人。

※（ ）は当時の所属

平成元年(1989)

国文学研究資料館に寄託されていた松浦一雄氏所蔵の松浦武四郎関係資料（現在は記念館蔵）の調査が行われる。

平成2年(1990)

2年間の調査成果が、松浦武四郎関係歴史資料調査報告書『松浦武四郎関係歴史資料目録』（三雲町教育委員会）としてまとめられる。記念発表会では谷澤尚一氏による講演「松浦武四郎の業績とその再評価」と、遺品の展示、また発表会に先立ち大台ヶ原登山が行われた。

平成3年(1991)

9月 三雲町は町制施行5周年を記念して、北海道にある武四郎ゆかりの地をめぐる旅「武四郎の足跡を訪ねて」を25日から3泊4日で実施。



洞爺湖畔の武四郎坂で撮影された集合写真

■ 平成4年（1992）

- 3月 大山晋吾氏著の小冊子「北海道の名付け親 松浦武四郎の生涯―特にその少・青年期を中心として―」が三雲町より発行される。
- 6月 3日の測量の日にちなみ、「測量の日」中部地区連絡協議会・三重県測量設計業協会などの主催で、津市リージョンプラザで「くらしの中の測量・地図」フェスティバルが開催。伊能忠敬の実測図や測量器具など88点が展示され、武四郎のコーナーも設けられた。講演会では谷澤尚一氏が「伊勢の生んだ測量の先覚者」と題して講演。

この年、三雲町は全国初となる武四郎資料を展示する施設として記念館を建設し、武四郎の業績や人物像を多角的に紹介する拠点づくりに取り組むための設計費を予算に計上する。

■ 平成5年（1993）

- 6月 10日から大阪府の国立民族学博物館で、民族文様から見たアイヌの世界をテーマにした企画展「アイヌモシリ」が開催され、三重松浦家で所蔵している武四郎のアイヌ民族資料（現在は記念館蔵）が出品される。
- 7月 10日に三重松浦家が大切に保存してきた資料305点（平成4年2月21日に三重県有形文化財に指定）などが、三雲町へ寄贈される。
寄贈記念式典が三雲町商工会館で行われ、三重松浦家の当主松浦清氏から寄贈資料の目録が黒宮哲之町長へ贈られた。記念式典で松浦清氏は、「和紙は虫食いや火災が怖い。せっかく樺太までいった記録が、世に知られないままなくなってしまうたら、何にもならない。きちんと保存してもらったうえ、専門の先生に解説してもらい、武四郎の価値を広く知ってほしい。」と話し、黒宮町長も「松浦家の家宝として受け継がれてきた貴重なものばかりだ。記念館の建設で、三雲の偉人を若い人たちにも伝えていきたい。」と、資料の今後について語る。
- 8月 12日に三雲町の奥川章博助役が、北海道東京事務所を訪れ、7月12日に発生した北海道南西沖地震による被災者への義援金を手渡す。
- 9月 地元小野江小学校の子どもたちが、北海道の子どもたちと文通を始める。記念館の建設が進む中で、小野江小学校では、地区独自で武四郎にちなんだことを始めようと、子どもたちに「このゆび、とまれ。北海道のお友だちに手紙を送りましょう」と呼びかけ、3年生から6年生の子どもたち16人が手紙を出した。子どもたちは、武四郎の話や、自分や学校の紹介を書き、武四郎の実家の写真や、三雲町のパンフレットを同封して、送り先は北海道の市町村を自由に選んで、各市町村の教育委員会へ送り、手紙は道内各地の小学校へ届けられた。文通が始まると、学校ではやっている遊びや、好きな食べ物などの話も弾み、何度も手紙をやりとりして、電話で話したり、プレゼントを贈りあう子どももいた。郷土の大先輩である武四郎にちなんで始まった文通は、三雲町らしい地域の特性を活かした取り組みとして注目された。

■ 平成6年（1994）

6月 一カ月後の記念館のオープンを前に、地元小野江小学校の子どもたちが、「松浦武四郎記念館まもり隊」を結成。小野江小学校では、ボランティアの心を養う「このゆび、とまれ！」運動を推進しており、記念館のオープンを前に、当時の寺本満之校長が子どもたちに呼びかけて、2年生から5年生までの33人が集まった。

27日には、「松浦武四郎記念館守り隊」であることを証明する証明書授与式が行われた。当時の鈴木恒雄記念館事務局長からそれぞれの隊員に証明書が手渡され、「守り隊」を代表して、5年生の浜中絵里子さんと、高橋宣子さんが「ボランティアとして頑張ります！」と宣誓した。

授与式の後、隊員は来館する人に好印象をもってもらうため、館周辺の清掃活動を行い、記念館のオープンに備えた。

※現在も「武四郎守り隊」として、小野江小学校の6年生で構成され、「武四郎まつり」などで活躍しています。

7月 3日に松浦武四郎記念館がオープンし、竣工記念式典が小野江小学校体育館で行われる。式典には、田川亮三・三重県知事をはじめ、横路孝弘・北海道知事、北海道ウタリ協会の野村義一理事長が出席。横路北海道知事は、「北海道の全容を明らかにし、アイヌ文化に深い理解を示した武四郎の見識の高さに敬意を表したい」、「武四郎は、三重県より北海道で有名。4回目の探検で訪れた札幌を蝦夷地の都として進言するなど、北海道発展のために尽くした業績は計り知れない。記念館の完成は、北海道への理解を深めることにもなり喜ばしい」と語り、ウタリ協会の野村理事長は、アイヌ民族の伝統的な衣装で出席し、「この衣装で津軽海峡を越えたのは初めて」、「松浦武四郎はアイヌ民族がたった一人尊敬する日本人」と武四郎をたたえた。

オープン初日は館内を無料開放し、約800人が見学をするなど、大勢の人で賑わった。



桔梗会のみなさんによる北の先駆け

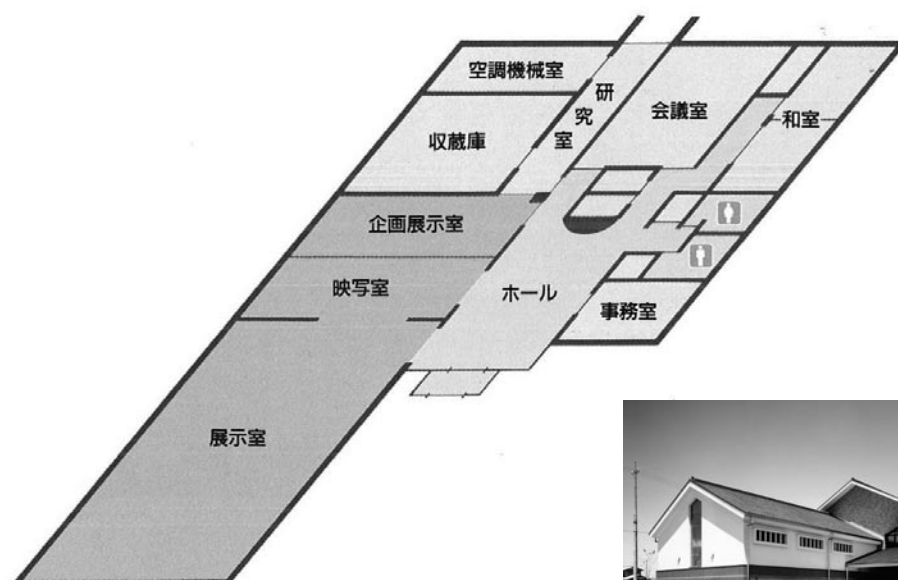


竣工記念式典の様子

施設の概要

設置目的

松浦武四郎に関する資料並びに歴史、考古、民俗等の資料の保存と活用及び小野江コミュニティセンターとの複合施設として、郷土の文化の向上に寄与する。



所在地 三重県松阪市小野江町383番地

敷地面積 3385.34㎡

※当初3,406.15㎡のうち、県道413号嬉野津線の交差点に必要な土地20.81㎡を平成18年8月9日に松阪市から三重県へ所管換えし、看板塔も移設

建築面積 913.28㎡

延床面積 850.00㎡

建物構造 鉄筋コンクリート造平屋建

各室面積 展示室 252.00㎡

映写室 60.00㎡

企画展示室 60.00㎡

収蔵庫 72.00㎡

空調機械室 36.00㎡

研究室 24.90㎡

荷解室 11.10㎡

事務室 30.00㎡

会議室 70.00㎡

和室1 22.62㎡

和室2 27.18㎡

ホール 100.00㎡

湯沸室 6.0㎡



展示室



会議室

	倉庫 1	6.0㎡	
	倉庫 2	7.4㎡	
	トイレその他	64.80㎡	
駐車台数	乗用車62台 ※当初63台のうち1台分は、平成24年度に公民館・まちづくり協議会が倉庫を設置		
建築年月日	着工 平成5年7月12日 竣工 平成6年3月31日		
収蔵資料	松浦武四郎および松浦家関係資料 旧三雲町内の歴史資料（寄託資料も含む） 三雲町史編さん関係資料		
建築目的	松浦武四郎関係資料の保存・研究・展示 松浦武四郎の顕彰 松浦武四郎を通じた地域づくり・人づくり 小野江地区住民の公民館活動の場（和室・会議室）		
事業名	まちづくり特別対策事業 松浦武四郎記念館建設事業（小野江地区コミュニティーセンター）		
事業費	建築費 331,970千円 設計費 17,178千円 その他 73,271千円 合 計 422,347千円		
設計事務所	三雲建築設計共同企業体		
施工会社	株式会社鈴木組		
その他	平成6年度 三重県建築賞 第14回 濱口賞を受賞 平成22年7月6日、博物館法第10条で規定された「博物館」（登録博物館）として三重県が松浦武四郎記念館を登録		



和 室



事務室



展示室入口



企画展示室



展示室



映写室

松浦武四郎記念館の収蔵資料と来歴

松浦武四郎記念館では、重要文化財1503点（歴史資料）、三重県指定有形文化財223点（歴史資料）に指定された松浦武四郎関係資料を収蔵している。

これらの資料群の核となる資料は、武四郎の実家にあたる三重県松阪市の松浦家と、武四郎の直系となる東京の松浦家に、それぞれ伝えられてきた資料をご寄贈いただいたものであり、以下にその来歴を示す。

- 明治21年(1888) 2月10日、松浦武四郎没（71歳）。資料は東京松浦家（武四郎の直系）、三重松浦家（武四郎の実家）でそれぞれ大切に保管される。
- 大正12年(1923) 関東大震災で東京松浦家が全焼。甚大な被害を蒙ったが、武四郎の自筆資料は紀州徳川家の南葵文庫（東京麻布）に貸し出されていたため、焼失を免れる。
- 昭和20年(1945) 東京大空襲で東京松浦家は全焼。家財道具は全て焼けたが関東大震災での経験を活かして、世界に一つしかない資料を何としても守るため、空襲の直前に栃木県佐野市へ資料を疎開させ、焼失を免れる。



資料が保管されてきた茶箱

- 昭和29年(1954) 終戦後、東京松浦家では武四郎自筆の原稿を中心とした資料を、文部省史料館（現在の国文学研究資料館）へ寄託（松浦家文書）し、その他の絵画・工芸等の資料については自宅で保管する。
- 平成4年(1992) 三重松浦家に伝来する武四郎の資料305点が、三重県指定有形文化財（歴史資料）となる。
- 平成5年(1993) 三重松浦家で保管されてきた資料が、三雲町（平成17年に合併し松阪市となる）へ寄贈される。
- 平成6年(1994) 三雲町が松浦武四郎記念館を開館する。
- 平成12年(2000) 東京松浦家で保管されてきた資料が、三雲町へ寄託される。
- 平成16年(2004) 東京松浦家は、三雲町へ「寄託」していた資料を「寄贈」とする。
- 平成17年(2005) 東京松浦家は、「松浦家文書」の国文学研究資料館への寄託を解き、全てを松阪市へ寄贈する。
- 平成18年(2006) 三重県は539点の資料を三重県指定有形文化財に追加指定し、合わせて844点となる。
- 平成20年(2008) 文化審議会の答申を受け、1503点の資料が、重要文化財（歴史資料）に指定される。これにより、三重県指定有形文化財は844点から223点に変更となる。

重要文化財「松浦武四郎関係資料」(歴史資料)の概要

○著述稿本類 511点

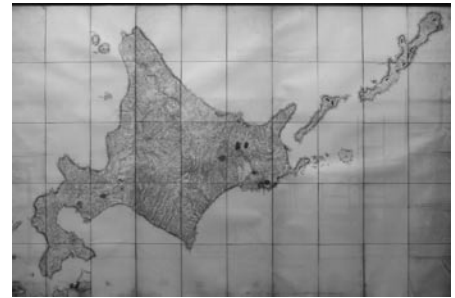
幕末に6度にわたり蝦夷地調査をおこなった際の調査記録である「初航蝦夷日誌」をはじめとして、延べ150冊を越える蝦夷地調査記録のほか、調査におけるフィールドノートである「野帳」など、幕末における蝦夷地の様子を伝える貴重な資料である。



151冊にのぼる蝦夷地調査の記録

○地図・絵図類 59点

武四郎の6度に及ぶ蝦夷地調査の集大成として幕末に刊行された「東西蝦夷山川地理取調図」は、北海道と千島列島を含む分割図で、26枚をつなげあわせると、縦約2m40cm、横約3m60cmに及び、内陸部を詳細にあらわした蝦夷地地図としては最大のものであるとともに、約9800点のアイヌ語地名を収録した画期的な地図である。



東西蝦夷山川地理取調図

○書籍類 287点

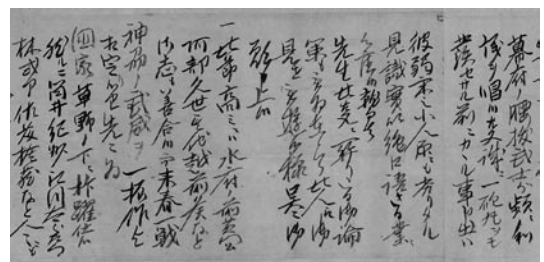
武四郎が自ら執筆・出版を手がけた著作が中心であり、蝦夷地関係の紀行本である「石狩日誌」、「知床日誌」、「十勝日誌」などのほか、アイヌ文化を紹介した「蝦夷漫画」、考古遺物をまとめた「撥雲余興」、晩年の大台ヶ原登山の記録「乙酉掌記」などのほか、収集した多彩な蔵書が含まれている。



アイヌ文化を紹介した蝦夷漫画

○文書・記録類 372点

武四郎が松阪の実家に宛てた手紙をはじめ、津藩の儒学者平松楽斎、伊勢の国学者足代弘訓や、吉田松陰・頼三樹三郎・藤田東湖といった尊王攘夷の志士、大久保利通・木戸孝允など明治維新に活躍した英傑や、画家の富岡鉄斎などから武四郎へ宛てた手紙があり、武四郎の幅広い交友関係を示している。



吉田松陰書簡

○書画・器物類 274点

アイヌ民族の姿を描いた「蝦夷人鶴の舞図」、大台ヶ原登山の後に作られた「大台山頂眺望図」など武四郎自身が描いた絵のほか、幕末から明治維新にかけて活躍した画家河鍋暁斎の大作「武四郎涅槃図」など、武四郎と交流のあった画家の作品や、蝦夷地調査から持ち帰ったアイヌ民族資料など、武四郎の収集品も多く含まれている。



大台山頂眺望図

その他の寄贈資料

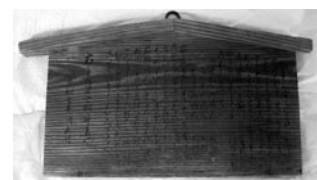
○旅籠「渡海屋」講札	9点（平成 6年 濱田市郎氏寄贈）	
○三重松浦家伝来刀剣類	5点（平成 6年・18年 三重松浦家寄贈）	
○松浦武四郎記念碑の拓本	22点（平成 7年・ 8年 千賀松生氏寄贈）	
○足代弘訓宛松浦武四郎書簡綴	2点（平成13年 住田正二氏寄贈）	
○オブジェ・高僧の書等	51点（平成14年 加藤一山氏寄贈）	
○三雲町史関係資料	約800点（平成15年 三雲町史編纂室から移される）	
○楽斎筆五行書	1点（平成16年 本教寺寄贈）	
○新論（会沢正志斎著書）	2点（平成16年 笹木義友氏寄贈）	
○松浦孫太・武彦関係資料	189点（平成16年 松浦一雄氏寄贈）	※平成12年から寄託
○駒田倍吉宛松浦武四郎書簡	34点（平成16年 駒田具夫氏寄贈）	
○三重松浦家旧蔵資料	約500点（平成18年 三重松浦家寄贈）	
○もっこ	1点（平成19年 戸部千春氏寄贈）	
○旅籠「渡海屋」膳・椀類	112点（平成19年 濱田佳明氏寄贈）	
○アンモナイト化石	1点（平成20年 萩原正夫氏寄贈）	
○松浦武四郎刊行本	20点（平成21年 松浦登巳郎氏寄贈）	
○蝦夷風俗図巻	1点（平成21年 佐々木利和氏寄贈）	
○蓮月焼	1点（平成24年 西田稔秋氏寄贈）	
○甚目村絵図	1点（平成25年 齋藤猛夫氏寄贈）	



旅籠「渡海屋」講札

寄託資料

○制札・絵図	7点（平成 6年 宇野誠一氏寄託）
○旅籠「渡海屋」膳・椀類	5点（平成19年 濱田佳明氏寄託）
○松浦本家旧蔵資料	約20点（平成22年 松浦壽久氏寄託）



制札（明和7年）

主な寄贈図書等

○松浦一雄氏寄贈図書	松浦武四郎・北海道関係の図書
○服部誠氏寄贈図書	昭和初期の北海道関係の図書など
○飯田久夫氏寄贈図書	明治時代に出版された地誌など
○小玉道明氏寄贈図書	展覧会図録、国史大辞典、国書総目録など
○高田直彦氏寄贈図書	『故宮清瓷図録』、『日本歴史』 など
○中谷誠一氏寄贈資料	武四郎が登場するパンフレット、新聞、ビデオなど
○間島吉延氏寄贈パネル等	武四郎が鏡を奉納した天満宮を紹介するパネル、大型地図など
○大林日出雄氏収集図書	戦前・戦中に出版された教科書のコレクション
○宇野慈郎氏寄贈図書	久居市誌、一志町史など
○佐藤貞夫氏寄贈図書	松浦武四郎関係の図書
○佐々木利和氏寄贈図書	松浦武四郎・アイヌ文化関係の図書

- 松浦登巳郎氏寄贈図書 松浦武四郎関係の図書
- 松浦信彦氏収集図書 北海道やアイヌ文化関係の貴重書（一部は寄託）
- 宇野文男氏寄贈図書 季刊民族学・絵図関係

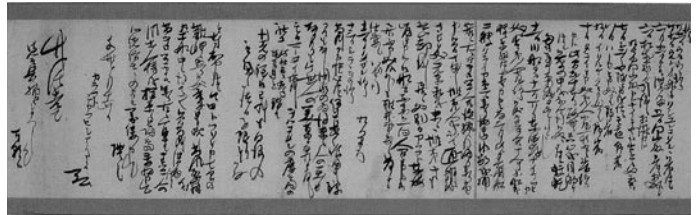
この他にも開館から20年間にたくさんの方から図書等をご寄贈いただきました。
本当にありがとうございました。

購入資料

○野田竹溪宛松浦武四郎書簡集

2 巻

平成16年 株式会社思文閣出版より

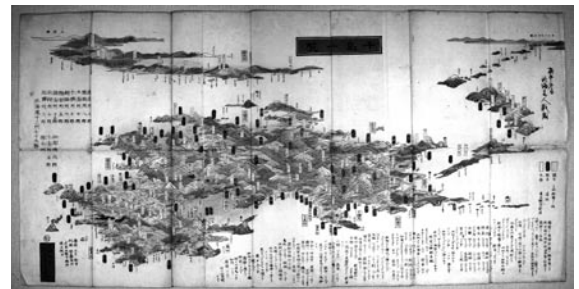


○千島一覽

松浦武四郎著

1 鋪

平成16年 弘南堂書店より



○現如上人北海道開拓巡教錦絵

松浦武四郎注

18枚

平成16年 弘南堂書店より



○木片勸進続編

1 冊

平成16年 サッポロ堂書店より

○尚古杜多

松浦武四郎著

1 冊

平成18年 弘南堂書店より

○アイヌ民族衣装・トンコリ

5 点

平成19年 財団法人アイヌ民族博物館より

○蝦夷大概之図



松浦武四郎著

1鋪

平成21年 弘南堂書店より

○蝦夷人機織図

松浦武四郎筆

1幅

平成23年 株式会社加島美術より



その他の寄贈

○一畳敷書斎の再現セット

平成23年 INAXギャラリーで

展示されたものを寄贈いただく



一畳敷書斎の再現セット



東京都三鷹市の国際基督教大学に現存する武四郎の一畳敷

コスモス文化振興基金

松浦武四郎に関する資料の保存と活用、収集等に要する基金として平成12年度に設立されました。いただいたご寄付は、資料の保存修理や購入に活用させていただいています。

ご寄付をいただいた方々

匿名	平成12年度
上原清善氏（コザボウリングセンター 代表）	平成12年度
松浦一雄氏（松浦武四郎直系子孫、東京松浦家）	平成12～21年度
南出寛三氏	平成18年度
大阪市食生活改善推進協議会 三雲グループ	平成20年度
松浦正明氏	平成25年度

活用させていただいた内容

平成15年度	武四郎涅槃図（保存修理）
平成21年度	蝦夷大概之図（資料購入）
平成24年度	蝦夷人機織図（資料購入）
平成25～26年度	蝦夷屏風（保存修理）

入館者の推移

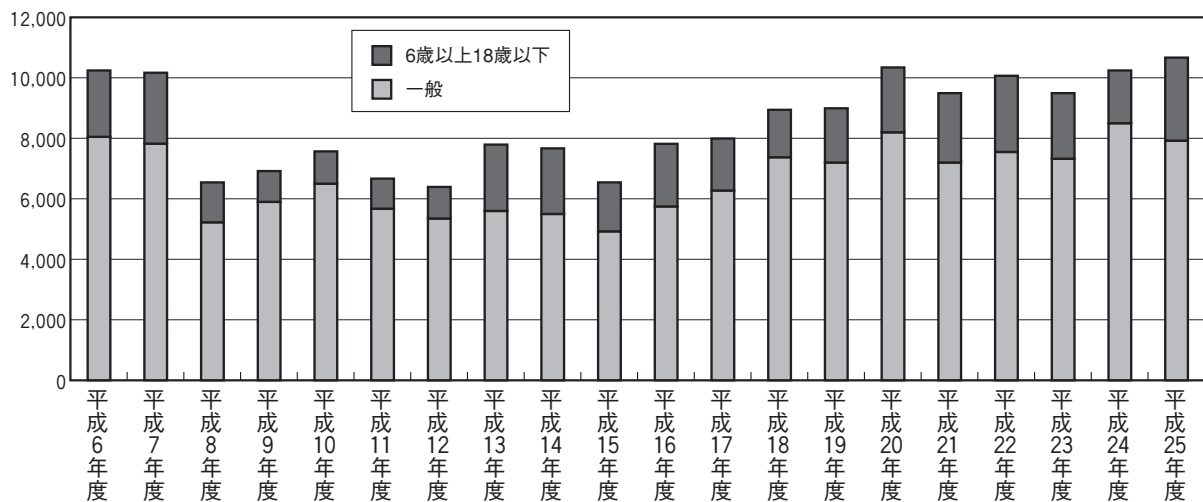
(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 ※2	3月	年度合計
平成6年度	※1			3,247	1,765	1,005	852	725	487	771	534	879	10,265
平成7年度	726	1,051	869	747	1,157	687	683	792	296	502	1,894	800	10,204
平成8年度	576	586	611	598	831	466	319	388	193	321	1,370	328	6,587
平成9年度	318	570	501	348	662	838	743	812	656	330	342	814	6,934
平成10年度	467	735	432	407	731	322	1,253	473	278	359	1,667	454	7,578
平成11年度	288	725	428	421	538	521	520	521	214	282	1,740	467	6,665
平成12年度	311	571	307	251	350	404	328	405	205	345	2,629	345	6,451
平成13年度	345	455	296	407	428	506	521	466	182	345	3,469	390	7,810
平成14年度	367	292	559	622	520	381	383	472	195	235	3,376	259	7,661
平成15年度	241	430	219	341	381	283	500	230	136	259	3,290	268	6,578
平成16年度	254	582	442	330	420	162	337	225	162	215	4,361	332	7,822
平成17年度	343	689	395	222	579	507	970	351	294	310	2,696	564	7,920
平成18年度	211	922	298	316	538	630	690	643	295	452	3,487	446	8,928
平成19年度	344	596	526	433	549	802	715	980	149	535	3,018	333	8,980
平成20年度	414	837	352	430	621	390	626	1,244	309	244	4,485	413	10,365
平成21年度	316	751	459	550	919	400	625	606	387	512	3,562	401	9,488
平成22年度	252	737	501	313	600	430	538	448	272	463	4,911	564	10,029
平成23年度	236	780	337	331	485	358	701	551	328	325	4,727	306	9,465
平成24年度	235	951	251	368	508	668	607	490	816	898	3,924	547	10,263
平成25年度	545	568	262	321	428	549	1,036	966	221	436	4,866	448	10,646
												累計	170,639

※1 平成6年7月開館

※2 2月の入館者数には武四郎まつり当日の入館者も含む

入館者（人）



開館から20年の歩み

平成6年（1994）

- 7月3日 松浦武四郎記念館が開館。竣工記念式典を小野江小学校体育館で開催。
田川亮三・三重県知事、横路孝弘・北海道知事、野村義一・北海道ウタリ協会理事長が出席。
- 7月下旬 三雲町内の天白、鵠（かささぎ）、小野江、米ノ庄の4小学校の児童と三雲中学校の生徒計1,229人に入館料が無料になるおたのしみスタンプカードを配布（平成15年度から廃止）、スタンプを6個押したカードを5枚集めると記念品がもらえるため、夏休みは多く子どもたちでにぎわう。
- 8月3日 アイヌ民族から初の国会議員となった萱野茂さんが来館。
- 12月1日 記念館だより第1号を発行。以降毎月1回発行する。



スタンプカード5枚達成

平成7年（1995）

- 1月3日 臨時無料開館、来館者に甘酒無料サービスや紅白もち・みかんもプレゼント。
- 3月5日 講演会「武四郎と和歌」（講師：愛知教育大学 教授 岡本勝氏）。
- 3月26日 入館者1万人を達成、1万人目の入館者となった津市の水谷瑤子さんへ記念品を贈呈。
- 3月 記念館オリジナルテレホンカード購入者に白樺の手作りコースターをプレゼント。
- 5月9日 歴史小説『炎の旅人—松浦武四郎の生涯』の著者・本間寛治さんが来館、17日から発売される新刊著書を寄贈。
- 5月17日 三雲中学校2年生139名が一泊二日の行程で大台ヶ原を散策。
- 6月9日 武四郎の一壘敷の書齋を研究するコロンビア大学のヘンリー・スミス教授が来館。
- 7月1日 小野江小学校児童による「松浦武四郎記念館を守り隊」の16人が、武四郎の幼名「竹四郎」にちなみ記念館のホールに竹で作った七夕の飾り付けを行う。
- 7月9日 北海道苫小牧市の郷土史家・梅木孝昭さんにより、ロシア・サハリン州マカロフ郡プカチョボ（旧浜馬群潭）に木製の武四郎歌碑が建立される（11月には現地の人びとにより石碑に建て替えられる）。



オリジナルテレホンカード

- 7月18日 開館1周年記念特別展「蝦夷地への誘い」(～8月27日)。
- 7月23日 開館1周年記念講演会「三雲町と武四郎記念館」(講師：東京国立博物館 佐々木利和氏)。当日は無料開館とし、来館者に手作りの「武四郎竹羊かん」300本が配られる。
- 8月19日 会議室を開放し、夏休みの宿題をする場所を提供する(20日と毎週水曜日も)。
- 11月10日 三重県博物館協会が主催して久居市(現・津市)のサンライフ久居で開催された移動博物館に出品(～11月12日)。
- 11月14日 松阪の拓本家・千賀松生さんから、北海道各地を巡り武四郎の記念碑の拓本をとって掛軸にしたものを11点寄贈していただく。

■ 平成8年(1996)

- 2月6日 特別展「武四郎の見たアイヌ民具」(～4月28日)。
- 2月20日 記念館の図録が完成、B5版43ページで2千冊を作り1冊千円で販売。
- 2月21日 武四郎まつりを前に「松浦武四郎記念館を守り隊」のメンバーが記念館の周囲を清掃。
- 2月24日 武四郎まつり前日に、全国ツアー中のアイヌ詞曲舞踏団「モシリ」のみなさんが記念館へ立ち寄り、踊りと音楽を特別に披露していただく。
- 2月25日 第1回武四郎まつりを開催。
講演会「蝦夷地と松浦武四郎」(講師：松浦武四郎研究会 会長 秋葉實氏)。
清酒メーカー・油正が武四郎にちなんだ日本酒を販売、原料に一志米を使い、ラベルに武四郎が著した「蝦夷漫画」に描かれたアイヌの男性をデザイン。
- 2月 津市の宮西俊秀さんが「三重県先人思想・事跡顕彰社」を設立し、武四郎の絵葉書8枚1組を作成・販売。
- 3月17日 講演会「松浦武四郎とアイヌの交流」(講師：国立民族学博物館 教授 大塚和義氏)。
- 4月 三雲町が平成8年度版町民カレンダーに武四郎の生涯を漫画にして町内全戸、約3千世帯に配布。
- 5月26日 北海道小平町で武四郎の銅像が建立され、除幕式には東京松浦家から松浦一雄氏、三重松浦家から松浦清氏夫妻、市川庄一三雲町長が出席。
- 7月27日 三雲町スポーツ少年団と「小さなぬくもりを送る会」が「夏休み 海とのふれ愛 I N 三雲」を開き、阪神大震災で被災した神戸市の小学生28人を町へ招待、記念館も見学。
- 7月 松阪の拓本家・千賀松生さんから、北海道各地を巡り武四郎の記念碑の拓本をとって掛軸にしたものを、さらに11点寄贈していただく。



小平町に建つ武四郎の銅像

- 8月7日 三雲町は「北海道地域間交流事業」として、町内の小学5・6年生55人を北海道へ派遣。4泊5日の日程で道内の武四郎ゆかりの足跡を訪ね、平成7年に武四郎の記念碑が建てられた長沼町・小平町の子どもたちと交流した。
- 9月15日 講演会「武四郎と周辺の人びと」(講師：靖国神社 遊蹴館 課長 大山晋吾氏)。
- 12月20日 北海道上川支庁が天塩川流域活性化事業の一つとして、武四郎の天塩川での足跡を紹介したマップ「北大河・テッシ」を出版し配布。

■ 平成9年 (1997)

- 1月28日 特別展「松浦武四郎と白老」(～3月9日)。
- 2月23日 第2回武四郎まつりを開催。白老町のアイヌ民族博物館のみなさんを招きアイヌ古式舞踊を披露。
講演会「北辺の先覚者松浦武四郎」(講師：松浦武四郎研究者 谷澤尚一氏)。
- 6月29日 梅木孝昭さんの尽力で、ロシア・サハリン州郷土博物館で「松浦武四郎展」が開催され、オープニングセレモニーに千賀松生氏が招待される。
- 7月12日 北海道札幌市に事務局を置く松浦武四郎研究会が、「松浦武四郎の足跡を訪ねてー積丹歴史探訪」を開催。
- 9月20日 北海道士別市で北海道上川支庁の主催による「松浦武四郎フォーラム」が開催され、鈴木恒雄館長がパネリストとして出席。
- 10月 武四郎に大台ヶ原登山を案内した奥田守亮の子孫である三重県海山町の植村尚さん宅から武四郎自筆の手紙と三条実美の書が見つかる、明治18年に武四郎が三条へ頼んで奥田へ贈ったものと判明。

■ 平成10年 (1998)

- 1月 津市の石水博物館で館蔵品展「川喜田石水と松浦武四郎」が開催(～2月19日)。
- 2月21日 第3回武四郎まつりを開催。会場は記念館ではなく、「ハートフルみくも」とし、武四郎のパネルを展示したほか、会場から記念館まではシャトルバスを運行。
講演会「アイヌの歴史と文化」(講師：千歳市アイヌ文化伝承保存会 会長 中本ムツ子氏)。
- 4月12日 北海道の松浦武四郎研究会と研究交流会を記念館で開催。北海道の武四郎研究者と地元の武四郎研究者が初めて交流。
- 10月9日 北海道美深町に「松浦武四郎踏査之地碑」が建立され、除幕式が行われる。



美深町に建つ武四郎の記念碑

■ 平成11年（1999）

- 1月17日 講演会「知床という旅～松浦武四郎の旅を体験する～」(講師：風のたより 代表 佐藤智氏)。
- 2月8日 NHK教育テレビのETV特集で「北方記録の先達 松浦武四郎に行く」と題して、8日に第1部北海道編、9日に第2部サハリン編が放送される。
- 2月28日 第4回武四郎まつり開催。アイヌ古式舞踊を「帯広カムイトウウポポ保存会」のみなさんに披露していただく。
武四郎まつりマスコットキャラクターのデザインを公募し、三雲町立鵠小学校6年生の前田美穂さんの作品が最優秀賞に選ばれ、「たけちゃん」が誕生。
- 9月21日 開館5周年記念特別展「武四郎の秘められた肖像—松浦一雄氏所蔵資料より」(～11月21日)。
企画展示「アイヌ刺繍文様の世界」、国立民族学博物館より展示資料を借用(～11月21日)。
- 9月26日 アイヌ文化体験学習会を開催し、アイヌ文様刺しゅうを体験。講師は上武やす子氏で、10月24日、12月12日、1月23日の全4回。財団法人アイヌ分化振興・研究推進機構の助成事業として実施。
- 10月17日 特別展記念講演会「午睡図を語る」(講師：東京国立博物館 佐々木利和氏、河鍋暁斎研究家 立道恵子氏)、対談形式。



■ 平成12年（2000）

- 2月27日 第5回武四郎まつりを開催。加納オキ氏によるアイヌ民族楽器「トンコリ」の演奏とアイヌ古式舞踊の披露。
- 6月13日 特別展「武四郎の蝦夷地の調査」、松浦一雄氏より国文学研究資料館に寄託されている資料を借用(～8月13日)。
- 8月10日 企画展示「伊勢型紙にみる美と技の世界」、津市の高田靖之氏より伊勢型紙に関する資料を借用(～10月29日)。
- 11月23日 武四郎直系の子孫である東京の松浦一雄氏から武四郎関係資料302点と、松浦孫太・武彦関係資料189点を寄託していただく。

■ 平成13年（2001）

- 1月21日 アイヌ古式舞踊体験教室を開催。北海道白老町のアイヌ民族博物館の方に指導していただき、アイヌ古式舞踊や民族楽器ムックリ、アイヌの食文化についても学び、全2回で2回目は2月4日に実施。参加者は武四郎まつりで踊りを披露。
- 1月30日 松浦一雄氏資料寄託記念特別展「北海道人樹下午睡図とその周辺」(～3月18日)。

- 2月15日 企画展示「知床の自然写真展」(～4月5日)、北海道羅臼町教育委員会の涌坂周一氏より写真借用。
- 2月25日 第6回武四郎まつりを開催。アイヌ古式舞踊を白老町のアイヌ民族博物館伝統舞踊保存会のみなさんが披露。
- 3月9日 札幌市在住のアマチュア天文家の渡辺和郎さんが発見した小惑星が、北海道の名付け親とされる松浦武四郎にちなんで、「Matsuura」と名づけられる。
- 5月16日 北海道平取町からスズランを送っていただき、記念館で育てる。
- 7月24日 兵庫県神戸市の間島吉延氏より須磨綱敷天満宮へ奉納した鏡を紹介するパネルを寄贈していただく。
- 8月3日 三重県博物館協会の移動博物館で「武四郎と大台ヶ原」について展示(～8月5日、会場：伊勢市生涯学習センターいせトピア)。
- 9月18日 特別展示「武四郎とめぐる人々」(～12月16日)。
- 10月13日 朝日町歴史博物館で開催される東海道宿場伝馬制度制定400周年記念特別展「三重の旅人たち」(～11月18日)へ所蔵資料を貸し出す。
- 12月5日 松浦一雄氏から石像2体と提灯1点を追加で寄託いただく。
- 12月 三雲中学校生徒により稲生淳子先生が作曲した「武四郎にささげる曲」の歌詞を彫ったパネルが完成



開花したすずらん(平成18年5月)

■ 平成14年(2002)

- 2月2日 講演会「三重県と北海道―北海道に渡って活躍した三重県出身者たち―」(講師：北海道開拓記念館前学芸部長 関秀志氏)。
- 2月17日 アイヌ文化体験教室「アイヌ伝承料理体験」(講師：居壁リセ子氏、床絵美氏、居壁太氏)。
- 2月24日 第7回武四郎まつりを開催。平取町アイヌ文化保存会がアイヌ古式舞踊を披露。
- 3月18日 三雲小野江郵便局が、伊勢街道沿いから記念館の東隣に移転して開局。
- 6月 広報みくも6月号から「武四郎が行く!」と題して連載開始、平成16年12月号まで続く。
- 7月 北海道の松浦武四郎研究会の会員19名が大台ヶ原にある武四郎の分骨碑を参拝した後記念館を見学。
- 8月8日 NHK総合テレビの番組「空とぶイカ・海面を走る貝」で武四郎の西蝦夷日誌に記録されたホタテ貝が帆を立てた舟のように海面を走る姿が検証される。
- 8月9日 学芸員実習(皇學館大学4年生1名、佛教大学大学院修士課程1名、～8月13日)。
- 8月26日 三重テレビの夕方の情報番組「○ミエTVおしえて三重奏」の三雲町を紹介するコーナーで市川庄一町長が出演し、東京都三鷹市の国際基督教大学構内に現存する武四郎の一畳敷を紹介。

■ 平成15年（2003）

- 2月2日 アイヌ文化体験教室「アイヌ民族楽器ムックリ製作・演奏体験」（講師：居壁太氏）。
- 2月23日 第8回武四郎まつりを開催。帯広カムイトウウポポ保存会がアイヌ古式舞踊を披露。
講演会「武四郎の蝦夷地地図」（講師：北海道の古地図研究者 高木崇世氏）。
- 3月27日 北海道開拓記念館による武四郎関係資料調査（～3月29日）。
- 5月1日 オリジナル一筆箋を発売（図柄は6種類）。
- 5月21日 三雲中学校2年生が大台ヶ原登山（昭和40年代から続く伝統行事、～22日）。
- 7月21日 平成13年から兵庫県の間島吉延氏より寄贈いただいていた武四郎の天神信仰と聖跡二十五霊社を紹介したパネルが、25箇所分の全てがそろそろ。
- 8月8日 学芸員実習（皇學館大学4年生1名、～8月10日・9月8日）。
- 11月1日 松阪大学で開催された松阪シンポジウム「江戸時代伊勢地域における科学技術」で「松浦武四郎の描いた蝦夷地地図」を講演（山本）。



アイヌ文化体験教室
「ムックリ製作・演奏」



武四郎まつり（小野江小6年生の発表）



武四郎まつり（高木氏の講演）

この年から、平成12年に東京松浦家より寄託があった武四郎関係資料の資料調査がスタート。平成16年度まで2カ年の計画で、国庫補助事業により行う。



三雲中学校による大台登山（平成15年5月）



間島吉延氏と寄贈されたパネル

■ 平成16年（2004）

- 1月25日 アイヌ文化体験教室「アイヌ文様刺しゅう体験」（講師：星野工氏）。
- 2月1日 アイヌ文化体験教室「アイヌ文様木彫り体験」（講師：居壁太氏）。
- 2月29日 第9回武四郎まつりを開催。阿寒アイヌ民族文化保存会がアイヌ古式舞踊を披露。



アイヌ文様刺しゅう体験

講演会「松浦武四郎のころ」（講師：松浦武四郎研究会 会長 秋葉實氏）。

2月

東京都三鷹市の国際基督教大学構内に現存する武四郎の一畳敷で、茅葺き屋根を葺き替える際に、武四郎のふるさと三雲町や、ゆかりのある北海道からもススキを送ることになり、三雲町内で刈り取ったものや、白山町役場から青山高原のススキを提供してもらい送る。葺き替えの完成は9月。

4月28日

札幌市の北海道開拓記念館で特別展「松浦武四郎一時代と人びと」展が始まる（～6月13日、その後7月23日～8月22日まで北海道立帯広美術館に巡回展示）。東京松浦家による寄託資料を中心に資料を貸し出す。

5月16日

北海道開拓記念館で開催された松浦武四郎研究会の研究発表会で講演（山本）。

6月8日

間島吉延氏より大型の世界地図を寄贈していただく。

7月27日

同氏より大型の日本地図も寄贈していただく。

6月12日

文部科学省特定領域研究「江戸のモノづくり」の第4回国際シンポジウムが三重大学で開かれ、パネルディスカッションに出席（山本）。

8月6日

学芸員実習（～10日、皇學館大学4年生1名）。

10月4日

テレビ東京系列の全国ネットで「感動大地北海道2 ニセコ・尻別川の旅」が放送され、武四郎の蝦夷地調査が紹介される。

10月

三雲町がホームページをリニューアルし、武四郎の業績を詳しく紹介。

11月

三雲町の平田英夫氏より昭和63年に行われた武四郎没後100周年記念行事の大台ヶ原登山と、平成3年に町制5周年記念として行われた「松浦武四郎翁の足跡を訪ねて」の記録映像を寄贈いただく。

12月15日

東京松浦家の松浦一雄氏から武四郎関係資料305点と松浦孫太・武彦関係資料189点を寄贈していただき、記念館で寄贈式を行う。

12月24日

三雲町の駒田具夫氏より駒田倍吉宛の松浦武四郎書簡など34点を寄贈していただく。



第9回武四郎まつり



第9回武四郎まつり（秋葉氏の講演）



一畳敷に使われるススキを送る

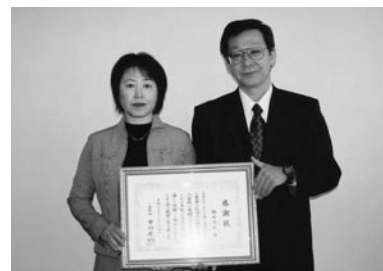


北海道開拓記念館特別展テープカット



松浦武四郎関係資料寄贈式

- 12月 平成15年から国庫補助事業により行ってきた武四郎関係資料の調査が完了し、『松浦武四郎関係歴史資料目録2』を出版。
- 12月 松浦武四郎研究会の会長秋葉實氏が、平成13年から取り組んできた武四郎往返書簡を年月日順に編む作業を完成する。
- 12月 平成17年1月より合併して「松阪市」となるため、記念館だよりの三雲町内全戸配布は121号で終了する。



駒田具夫氏が武四郎書簡を寄贈

■ 平成17年（2005）

- 1月1日 三雲町が、松阪市、嬉野町、飯南町、飯高町と合併し、「松阪市」となる。
合併前の住所「三雲町小野江」が「松阪市小野江町」に、「小野江地区コミュニティーセンター」の名称が「小野江コミュニティーセンター」に変更される。
- 1月30日 アイヌ文化体験教室「樹皮編み」（講師：阿部弘美氏）。
- 2月27日 第10回武四郎まつりを開催。白老民族芸能保存会がアイヌ古式舞踊を披露。
- 3月20日 講演会「武四郎をめぐる人びと」（講師：北海道開拓記念館 学芸員 三浦泰之氏）。
- 4月1日 北海道テレビの番組「未来世紀日本」の収録で月尾嘉男氏が来館。
- 7月10日 新たに松阪市となった市民のみなさんに武四郎を知っていただくため武四郎入門講座を開き、以後毎月1回、第2日曜日に開催することとする。
- 10月18日 東京松浦家の松浦一雄氏から国文学研究資料館へ寄託されていた武四郎関係資料216点を寄贈していただき、記念館で寄贈式を行う。
- 10月24日 「武四郎を読む会」が滋賀県大津市の三井寺にある武四郎の鍋塚を訪問。
- 10月29日 アイヌ文化体験教室「アイヌ文様刺しゅう」（講師：宇梶静江氏、～30日）。



アイヌ文化体験教室「樹皮編み」



第10回武四郎まつり



三浦泰之氏講演会



松浦武四郎関係資料寄贈式



アイヌ文化体験教室「アイヌ文様刺しゅう」

平成18年（2006）

- 2月11日 武四郎の命日 2月10日に合わせて武四郎忌俳句会が行われる。
- 2月26日 第11回武四郎まつりを開催。雨天のため小野江小学校体育館にステージを移す。弟子屈町の屈斜路古丹アイヌ文化保存会のみなさんが古式舞踊を披露。松浦武四郎の子孫と武四郎に屈斜路湖を案内したアイヌの男性イソリツカラ氏の子孫が出会う。
- 3月17日 三重県は県指定有形文化財（歴史資料）松浦武四郎関係資料305点に対し東京松浦家より寄贈のあった資料から539点を追加指定し、合わせて844点が県指定有形文化財となる。
- 3月26日 講演会「武四郎の足跡を訪ねて一私の北海道浜歩き」（講師：広谷良韶氏）。
- 6月1日 記念館オリジナル絵葉書を発売。
- 6月6日 ホールの床面に武四郎が出版した北海道地図「東西蝦夷山川地理取調図」の原寸大フロアサインが登場。
- 6月19日 臨時運営審議会を開催、松阪市の史跡に指定されている「松浦武四郎誕生地」（武四郎の実家）の保存と活用について話し合う。
- 8月6日 松浦武四郎研究会が「武四郎の足跡を訪ねてin サハリン」を実施し、3泊4日の日程でサハリンを調査した武四郎の足跡をたどる。
- 9月14日 「北海道命名の日 タベの集い」を開催、岡久司さんがインディアンフルートを演奏。
- 9月30日 アイヌ文化体験教室「モウル作り」（講師：宇梶静江氏、～10月1日）。
- 10月20日 記念館オリジナル野帳を発売、話題を呼ぶ。



第11回武四郎まつり
武四郎とアイヌの子孫が出会う



広谷良韶氏講演会



武四郎の北海道地図が床に！



展示室でインディアンフルートを演奏



アイヌ文化体験教室「モウル作り」

■ 平成19年（2007）

- 1月19日 講演会「松浦武四郎が記録した義経伝説」（講師：戸部千春氏）。
- 1月20日 アイヌ文化体験教室「木彫り」（講師：高野繁廣氏）。
- 2月25日 第12回武四郎まつりを開催。白糠アイヌ文化保存会のみなさんがアイヌ古式舞踊を披露。
- 3月17日 北海道帯広市出身のオカリナ奏者本谷美加子さんが来館し演奏を披露。19日には松阪市民文化会館でコンサートが開かれる。
- 5月16日 北海道新聞が進める北海道千本桜運動でエゾヤマザクラの苗木3本を送ってもらい記念館北側の市有地へ植樹。
- 5月30日 松浦武四郎生誕190年等記念事業実行委員会の初めての会合が開かれる。
- 6月7日 北海道名寄市で開かれた松浦武四郎天塩川探査百五十年記念「天塩川を語るつどいin名寄松浦武四郎フォーラム」に出席（高瀬、山本）。
- 6月16日 北海道の名寄市北国博物館で武四郎展が始まる（～7月8日）。記念館から野帳ほか7点を貸し出す。7月21日から士別市立博物館（～8月19日）に巡回したほか、9月2日から美幌博物館（～10月28日）でも展示。
- 8月14日 かつて伊勢街道で旅籠を営んでいた「渡海屋」の子孫・濱田佳明氏から漆塗りの膳・椀類112点を寄贈していただく。



戸部千春氏の講演会



アイヌ文化体験教室「木彫り」



第12回武四郎まつり



オカリナ奏者本谷さん来館



エゾヤマザクラ植樹



天塩川を語るつどい in 名寄



濱田佳明氏より渡海屋関係資料寄贈



アイヌ文化体験教室「古式舞踊」



松浦武四郎フォーラム（札幌市）

- 9月29日 アイヌ文化体験教室「アイヌ古式舞踊」（講師：押野千恵子先生）。
- 10月24日 放送大学で開講している「博物館資料論」の番組収録で佐々木利和氏が来館。記念館を取り上げていただく。
- 10月30日 札幌市で開かれた石狩川治水100年・踏査150年記念「松浦武四郎フォーラム」に出席（高瀬、山本）、しょうがい音頭「松浦武四郎一代記」も披露される。

この年から、北海道開拓記念館が中心となって武四郎の資料を全国的に調査・研究する「近世後期から近代初期に形成された知識人ネットワークに関する基礎研究」がスタートし、松浦武四郎記念館も協力して平成22年度まで行われる。

■ 平成20年（2008）

- 1月13日 アイヌ文化体験教室「アイヌ文様ベスト」（講師：涼宇古氏、～14日）。
- 1月29日 講演会「アイヌ民族が語る松浦武四郎」（講師：秋辺日出男氏）。
- 2月24日 松浦武四郎生誕190年等記念事業オープニングイベントを松阪市民文化会館で開催。松阪市制施行3周年記念式典に続いて行う。
- 2月25日 第13回武四郎まつりを開催。鶴川アイヌ文化伝承保存会のみなさんがアイヌ古式舞踊を披露。
- 3月24日 松浦武四郎生誕190年等記念事業記念シンポジウム「松浦武四郎とアイヌ民族」を、松阪市産業振興センターで開催。
- 5月11日 松浦武四郎記念館友の会の設立総会が開かれる。
- 10月15日 武四郎の足跡を訪ねてin北海道が実施され、3泊4日の行程で阿寒湖、屈斜路湖、摩周湖をめぐり武四郎の足跡を巡ったほか、アイヌ民族のみなさんと交流。
- 10月29日 武四郎の足跡を訪ねてin大台ヶ原が実施され、佐藤貞夫先生の案内で大台ヶ原の武四郎の足跡を歩く。
- 11月28日 アイヌ文化体験教室「アイヌ文様ポシェット」（講師：宇梶良子氏）。



秋辺日出男氏講演会



第13回武四郎まつり

■ 平成21年（2009）

- 2月4日 国道23号沿いに建つ武四郎誕生地を紹介する看板が、設置から20年が経過し色あせてきているため、平成20年に新しい看板のデザインを全国に公募。松浦武四郎生誕190年記念事業実行委員会などで審査し、札幌市の田中宏美さんのデザインが選ばれ、



第14回武四郎まつり

- 新しい看板が完成する。
- 2月11日 松浦武四郎生誕190年等記念事業の締めくくりとして松浦武四郎研究成果速報会「武四郎研究の最前線」を松阪市産業振興センターで開催。
- 2月22日 第14回武四郎まつりを開催。静内民族文化保存会のみなさんをお招きする予定が新千歳空港が豪雪で飛行機が欠航となり、まつり前日に急きょ関東で活躍するアイヌレブルズのみなさんに依頼してアイヌ古式舞踊を披露していただく。
- 3月8日 講演会「銀の滴ふるふる～知里幸恵ーアイヌ民族の復権にかけた19歳の生涯～」(講師：横山むつみ氏)。
- 7月10日 平成20年3月21日に開かれた文化審議会で答申のあった松浦武四郎関係資料の重要文化財指定について、文部科学省告示第115号(7月10日付官報掲載)により、1503点が重要文化財(歴史資料)の指定を受ける。
- 9月14日 北小野江自治会、南小野江自治会、松浦武四郎記念館友の会が中心となり、松浦武四郎誕生地保存会が設立される。
- 9月 松浦武四郎が出版した最初の北海道地図「蝦夷大概図」を札幌市の弘南堂書店から購入する。
- 10月23日 「たけちゃん」がゆるキャラまつりin彦根 キグミさみっと2009に出場し、武四郎と武四郎まつりをPRする(～25日)。
- 10月31日 アイヌ文化体験教室「アイヌ文様エプロン」(講師：宇梶良子氏、～11月1日)。



横山むつみ氏講演会



重要文化財指定書



松浦武四郎誕生地保存会 設立総会



ゆるキャラまつりにたけちゃんが出場

平成22年(2010)

- 2月7日 大阪府守口市の「もりぐち市民講座」で武四郎について講演(山本)。
- 2月14日 講演会「武四郎涅槃図のこし方」(講師：板橋区立美術館 館長 安村敏信氏)。
- 2月25日 記念館駐車場の西南角に「松浦武四郎のふるさと松阪」を示す観光案内看板が取り付けられる。デザインは津市在住のデザイナー今城茉莉さんの作



安村敏信氏講演会

品で、平成20年に行った松浦武四郎生誕190年等記念事業で全国公募した看板デザインの中から次点に選ばれたものを使わせていただく。

- 2月28日 第15回武四郎まつりを開催。アイヌ古式舞踊を札幌市のアイヌ民族の女性グループ「アンコラチ メノコ ウタラ」のみなさんが披露。チリ沖で発生した大地震により伊勢湾に津波が到達する恐れがあるため午後のイベントを中止。

国の臨時交付金を受けて館内映像装置の改修を行い、展示室の映像コーナーと武四郎クイズをリニューアルする。

- 4月3日 松浦武四郎誕生地保存会が主催して、誕生地の裏にある金田一京助博士が植樹した桜の花見会が行われる。

- 4月12日 平成30年松浦武四郎生誕200年への会が街道ウォークを行う。奈良県宇陀市榛原区の伊勢本街道を歩いて嘉永6年の武四郎の足跡をたどり、上田口で武四郎が泊まった布袋屋跡に記念碑が建てられる。

- 5月12日 武四郎を読む会の主催で、武四郎が神鏡を奉納した京都の長岡天満宮と大阪府高槻市の上宮天満宮をめぐるバスツアーが行われる。

- 6月5日 INAXギャラリー大阪で企画展「幕末の探検家・松浦武四郎と一畳敷」が開催（～8月17日）。9月3日からINAXギャラリー名古屋（～11月18日）、12月2日からINAXギャラリー東京（～2月19日）へも巡回する。

- 6月25日 大阪市立芸術創造館で武四郎を主人公にした演劇「アイヌモシリ」が上演（～27日）。

- 7月6日 博物館法第10条で規定された「博物館」（登録博物館）として三重県が松浦武四郎記念館を登録。

- 8月28日 三雲中学校の大台ヶ原登山（日帰り）。

- 9月27日 「参宮街道夢おこしの会準備会」の主催で、真覚寺で月見の会が開かれる。

- 10月23日 「たけちゃん」がゆるキャラまつりin彦根 キグるミさみっと2010に出場し武四郎をPR（～24日）。

- 10月30日 アイヌ文化体験教室「アイヌ文様木彫り」（講師：星野工氏）。



駐車場に観光案内看板設置



リニューアルされた武四郎クイズ



松浦武四郎誕生地の花見会



伊勢本街道ウォーク（春）



伊勢本街道ウォーク（秋）

11月23日 平成30年松浦武四郎生誕200年への会主催の街道ウォーク第2弾が行われ、津市美杉町の伊勢本街道歩き、地元の人々と交流する。

■ 平成23年（2011）

1月7日 （財）アイヌ文化振興・研究推進機構が主催するアイヌ文化普及啓発セミナー in 松阪が松阪市産業振興センターで行われ、弓野恵子氏、山丸郁夫氏、千葉伸彦氏が講演。



アイヌ文化普及啓発セミナーin松阪

1月29日 アイヌ文化体験教室「アイヌ文様タペストリー」（講師：上武やす子氏、～30日）。

2月12日 松浦武四郎誕生地保存会により、真覚寺に案内看板が設置される。

2月13日 講演会「明治十五年の武四郎—壬午遊記を読む」（講師：佐藤貞夫氏）。

2月24日 株式会社INAXへお願いし、武四郎の書斎「一畳敷」の復元セットを寄贈していただく。



第16回武四郎まつり

2月27日 第16回武四郎まつりを開催。静内民族文化保存会のみなさんにアイヌ古式舞踊を披露していただく。

3月20日 アイヌ文化体験教室「ござ編み」（講師：上武やす子氏、～21日）。

3月25日 小野江小学校5年生が武四郎の生涯を版画で紹介した冊子を作る。

4月2日 松浦武四郎誕生地保存会が主催して、金田一京助博士が植樹した桜の花見会を開く。

4月10日 昨年に続いて平成30年松浦武四郎生誕200年への会が主催して、嘉永6年の武四郎の足跡を訪ねる伊勢本街道ウォークが行われる。

5月17日 記念館駐車場の自動販売機が壊されているのが見つかる。

6月24日 アイヌ文化体験教室「編みかご」（講師：長縄由加利氏、～26日、7月30～31日）。

7月21日 北海道で天塩川学セミナーが開かれ、高瀬名誉館長が講演。山中光茂松阪市長と宮本正道館長も出席し、天塩川流域の市長村長と交流。その後、松阪夢交流事業により小野江小学校、三雲中学校が交流している弟子屈町を訪問。

7月 災害時の対応を示した防災マニュアルを作成する。

8月30日 学芸員実習を行う（皇學館大学4年生1名、～9月1日・9月8日・9日）。

9月11日 夜に「光れ街道夢おこしの会」が松浦武四郎誕生地を中心とする南北50mに行灯を灯す。

10月16日 松阪市の菓子店「1010番地」が「武四郎バーム」を発売する。

11月15日 北海道中小企業家同友会釧路支部から松浦武四郎



松浦武四郎誕生地に行灯を灯す

- 12月 記念館の封筒1,000部を寄贈していただく。
雑誌『NAGI』47号に特集「松浦武四郎の歩き方」が掲載。

この年、國學院大学研究開発推進機構の内川隆志准教授を研究代表とする科学研究費「人文資料形成史の研究―静嘉堂文庫所蔵の松浦武四郎旧蔵資料の研究と公開」の調査・研究に協力。



武四郎バーム発売

平成24年（2012）

- 2月26日 第17回武四郎まつりを開催。チームニカオプのみなさんにアイヌ古式舞踊を披露していただく。
- 3月11日 講演会「20世紀初めに生きた樺太アイヌーピウスツキの調査」（講師：松浦信彦氏）。
- 4月16日 北海道の釧路鶴ヶ岱郵便局と釧路松浦郵便局で武四郎のパネル展が開催される。
- 5月12日 北海道アイヌ協会新ひだか支部により、新ひだか町真歌公園のシャクシャイン記念館前に武四郎の記念碑が建立され、除幕式が行われる（山本が出席）。
- 5月15日 三重松浦家旧蔵の刀剣類5点を三重県教育委員会に登録。
- 5月16日 北海道の弟子屈郵便局と弟子屈町公民館でも武四郎のパネル展が開催される。
- 5月21日 松浦武四郎記念館友の会が企画して、武四郎が奉納した神鏡を訪ね、兵庫県高砂市にある曾根天満宮、日笠山、姫路市にある大塩天満宮を巡る。
- 6月1日 アメリカ・コロンビア大学ヘンリー・スミス教授が武四郎涅槃図を調査。
- 7月2日 三重県から移住した浜口拓司さんが北海道厚真町であつま食品をオープンし、武四郎もち、武四郎だんごを発売。
- 7月8日 松浦武四郎誕生地の史跡指定50年を記念して、「史跡松浦武四郎誕生地の活用と整備を考える」シンポジウムを松阪市産業振興センターで開催。
- 6月26日 平成30年松浦武四郎生誕200年への会が企画して、3泊4日の行程で札幌、帯広、富良野を巡り、武



第17回武四郎まつり



松浦信彦氏講演会



武四郎記念碑の除幕式



誕生地シンポジウム 第1弾

四郎の足跡を訪ねる。

- 8月28日 学芸員実習（三重大学4年生1名、～9月1日）。
- 9月14日 ロシア・サハリン州マカロフ市元市長ニコライ・シドロフ氏が、千賀松生さんの案内で来館。約3千万年前の植物化石に武四郎の肖像と和歌を彫刻したものを寄贈していただく。
- 9月16日 松浦武四郎誕生地シンポジウムの第2弾として、「史跡松浦武四郎誕生地の活用に向けた意見交換会」を小野江小学校体育館で開催。
- 9月29日 アイヌ文化体験教室「樺太アイヌ文様刺しゅう」（講師：宇梶良子氏、～30日）。
- 12月4日 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構との共催でアイヌ工芸品展「AINU ART—風のかたりべ」展（～平成25年1月20日）を開催し、オープニングセレモニーを行う。



サハリンからニコライ氏来館



AINU ART展テープカット

■ 平成25年（2013）

- 1月9日 小野江小学校6年生が卒業制作として、武四郎の和歌と和歌からイメージしたイラストを添えた冊子『旅衣』が完成。
- 2月24日 第18回武四郎まつりを開催。「アンコラチ メノコウタラ」（ありのままの私たち）のみなさんが古式舞踊を披露。
- 3月10日 講演会「癸未溟誌を読む－明治16年の武四郎」（講師佐藤貞夫先生）を開催。
- 3月13日 この日行われた三重県立高等学校の社会科の入試問題に松浦武四郎の名が出る。
- 3月18日 北海道阿寒湖畔の土産店オйнаモシリが作ったアイヌ文様の巾着袋の中に、松阪市嬉野権現前町の豆腐店野瀬商店が作った煎り大豆を入れた、武四郎にちなんだ商品が作られる。
- 4月26日 松浦武四郎記念館友の会が企画して、武四郎が神鏡を奉納した奈良県桜井市の与喜天満宮を訪ねるバスツアーを行う。
- 6月18日 重要文化財指定資料のうち、蝦夷屏風の保存修理について滋賀県大津市の坂田墨珠堂へ委託し2年をかけて行う（平成27年3月完了予定）。
- 9月8日 アイヌ文化体験教室「楽器演奏、歌、古式舞踊」（講師：居壁太・平田幸・工藤千秋氏）。



第18回武四郎まつり



佐藤貞夫氏講演会

- 10月5日 東京都世田谷区にある静嘉堂文庫美術館で「幕末の北方探検家 松浦武四郎」展が開催される（～12月8日）。
- 10月7日 平成30年松浦武四郎生誕200年への会が企画して、北海道宗谷岬と天塩川流域の武四郎の足跡を訪ねるツアーが3泊4日の行程で行われる。
- 11月29日 アイヌ文化体験教室「アイヌ文様ストール」（講師：宇梶良子氏、～12月1日）。
- 12月20日 北海道白老町から戸田安彦町長が来館。



静嘉堂文庫美術館で
武四郎展開催

■ 平成26年（2014）

- 1月15日 学芸員実習を行う（北海道大学大学院修士課程1名、～1月19日）。
- 2月7日 津市の石水博物館で企画展「松浦武四郎と川喜田石水—幕末知識人のネットワーク」を開催（～4月6日）。
- 東京・日本橋の三重テラスで武四郎な3日間が開催される。
- 2月23日 第19回武四郎まつりを開催。様似民族文化保存会のみなさんにアイヌ古式舞踊を披露していただく。
- 3月9日 講演会「明治17年の武四郎 —『甲申日記』を読む」（講師：佐藤貞夫氏）。
- 3月 松阪市郷土の偉人に学ぶ教育推進委員会の制作した武四郎の副読本が完成。4月から松阪市内の小学校に通う5年生全児童に配布。
- 5月19日 松浦武四郎記念館友の会が企画して、武四郎が大神鏡を奉納した大阪天満宮を訪ねるバスツアーを行う。
- 北海道白老町役場とアイヌ民族博物館から野本館長ほか4名が来館。
- 6月18日 絵本『北加伊道—松浦武四郎のエゾ地探検』の出版を記念した原画展を開催（～7月21日）。
- 7月3日 開館から20年を迎える。
- 7月6日 松阪市立小野江小学校体育館で開館20年記念式典を行う。
- 松浦武四郎記念館友の会が三重県内では初めてとなる武四郎の歌碑を記念館の敷地に建立し、除幕式を行う。
- 講演会「北加伊道の絵本が生まれるまで」（講師：絵本作家 関屋敏隆氏）。



第19回武四郎まつり



佐藤貞夫氏講演会



絵本『北加伊道—
松浦武四郎のエゾ地探検』

資料の保存管理・調査研究

収蔵庫

松浦武四郎記念館では、資料が急激な温湿度の変化によってダメージを受けることや、カビ、文化財を食害する虫による被害を防ぐため、温湿度が常に一定になるよう空調管理された収蔵庫で、資料を大切に保存・管理しています。

文化財害虫の調査

平成14年度から、年3回（当初は年4回）、館内21箇所にて2週間トラップを設置して館内に侵入してくる虫を捕獲し、どこに、どのような虫が、どれだけ見つかるかによって、虫による資料への被害を防ぐ対策をとることができるよう文化財害虫の調査を行っています。

田園地帯に建つ環境から、夏場の夜間に建物入口より相当数の虫が侵入していることが毎年確認されており、夜間の施設使用は公民館関係やまちづくり協議会の会議に限定するなど、地域へも協力をお願いしています。

収蔵庫・展示室の燻蒸

収蔵庫では、平成7年から3年に1度、ガス剤による燻蒸を行っています。

また、展示室では、平成21年度から3年に1度、薬剤を散布して燻蒸を行っています。

温湿度管理

館内の8箇所にて温湿度記録計を設置し、急激な温湿度の変化がないかを確認しているほか、展示ケース内には調湿剤を置き、展示替えごとに交換して、湿度が一定に保たれるよう努めています。

資料の保存修理

平成14年度 武四郎涅槃図（北海道人樹下午睡図）
山口墨仁堂 ※三雲町単独事業

平成25年度～26年度

松浦武四郎関係資料のうち蝦夷屏風
坂田墨珠堂 ※国庫補助事業



地震の際に資料の飛び出しを防ぐため
ネットを取り付けています



トラップで捕獲した虫（風除室）



収蔵庫燻蒸作業の様子



保存修理の様子



蝦夷屏風 左隻 表

マイクロフィルムのデジタル化

平成18年度 東京松浦家が長く国文学研究資料館に寄託され、平成17年に松浦武四郎記念館に寄贈された松浦家文書について、北海道立文書館が撮影したマイクロフィルム40本26,433コマの全点複製を作るとともに、デジタル化しました。デジタル化されたデータは国文学研究資料館、北海道立文書館へも寄贈し、活用できるようにしています。

資料の調査・研究

昭和63～平成元年度

調査名称：松浦武四郎関係歴史資料調査（国庫補助事業）

調査内容：三重松浦家、東京松浦家で所蔵する武四郎関係資料および国文学研究資料館に寄託されている松浦家文書を調査

調査期間：昭和63年2月から平成2年1月

調査員：谷澤 尚一（松浦武四郎研究家）

岡本 勝（愛知教育大学教授）

佐々木利和（東京国立博物館学芸部考古課主任研究官）

佐藤 貞夫（県立高等学校教諭）

大山 晋吾（靖国神社遊蹴館部史料課員）

平成15～16年度

調査名称：松浦武四郎関係資料史料調査（国庫補助事業）

調査内容：東京松浦家寄託資料を中心に北海道、東京の武四郎関係資料も一部調査

調査期間：平成15年6月～平成16年10月

調査員：岡本 勝（中部大学教授）

佐藤 貞夫（元高等学校教諭）

安村 敏信（東京都板橋区立美術館学芸係長）

山田 哲好（国文学研究資料館助教授）



平成22～24年度

研究名称：近世後期から近代初期に形成された知識人ネットワークに関する基礎研究

研究内容：松浦武四郎記念館のほかに全国で所蔵する武四郎に関する歴史資料の調査とデータベース化

研究期間：平成19年度～平成22年度

研究者：研究代表者 笹木義友（北海道開拓記念館学芸部長）、三浦泰之（同館学芸員）、東俊佑（同館学芸員）

佐々木利和（北海道大学教授）

山田哲好（国文学研究資料館准教授）

山本 命（松浦武四郎記念館学芸員）

松本あづさ（藤女子大学講師）



展示活動

■常設展示

開館以来、常設展示は年4回（3ヶ月に1回）展示替えを行い、テーマを決めて展示し、資料は原則的に年1回、3ヶ月間を限度に展示し、展示後1年間は資料を休ませてきました。

平成20年7月の重要文化財指定後は展示期間を3ヶ月間から2ヶ月間にしています。

たびびと・松浦武四郎

武四郎と和歌

蝦夷屏風とその周辺

出版者・松浦武四郎

地理学者・松浦武四郎

武四郎の旅と生涯

武四郎と周辺の人びと

たびびと・松浦武四郎Ⅱ

松浦武四郎とアイヌの人びと

武四郎の書と絵画

武四郎と考古学

武四郎とアイヌ文化

文人 武四郎

北海道の名付け親 松浦武四郎

旅と松浦武四郎～幕末から明治にかけて

武四郎と和歌

アイヌ民具と風俗画

武四郎と蝦夷地の地図

武四郎と絵画

武四郎と和歌

武四郎と晩年の旅

武四郎とアイヌの人びと

武四郎と和歌

武四郎の蝦夷地調査

晩年の武四郎

武四郎の見たアイヌ文化

武四郎の蝦夷地地図

文人 松浦武四郎

武四郎とアイヌ

武四郎の生涯

武四郎のうた

武四郎の蝦夷地調査

武四郎の生涯

平成6年11月8日～7年1月29日

平成7年1月31日～7年4月16日

平成7年4月18日～7年7月16日

平成7年8月29日～7年11月12日

平成7年11月14日～8年2月4日

平成8年5月1日～8年8月11日

平成8年8月13日～8年10月27日

平成9年3月11日～9年6月8日

平成9年6月10日～9年9月7日

平成9年9月9日～9年12月14日

平成9年12月16日～10年3月8日

平成10年3月10日～10年6月7日

平成10年6月9日～10年9月6日

平成10年9月8日～10年12月6日

平成10年12月8日～11年3月7日

平成11年3月9日～11年6月6日

平成11年6月8日～11年9月5日

平成11年11月23日～12年3月5日

平成12年3月7日～12年6月11日

平成12年8月15日～12年12月10日

平成12年12月22日～13年1月28日

平成13年3月20日～13年6月17日

平成13年6月19日～13年9月9日

平成13年12月18日～14年3月3日

平成14年3月5日～14年6月9日

平成14年6月11日～14年9月8日

平成14年12月10日～15年3月9日

平成15年3月11日～15年6月8日

平成15年6月9日～15年9月3日

平成15年12月9日～16年3月7日

平成16年3月9日～16年6月6日

平成16年6月8日～16年9月5日

平成16年12月7日～17年3月6日



武四郎の書と絵画
(平成9年9月)



武四郎と蝦夷地の地図
(平成11年11月)



文人松浦武四郎
(平成17年3月)

文人松浦武四郎
 武四郎とアイヌ民族
 武四郎の知られざる生涯
 幕末・維新を生きた武四郎
 武四郎とアイヌ
 武四郎の好古趣味
 武四郎の晩年
 北海道人樹下午睡図
 幕末の武四郎
 北蝦夷地を調査する
 武四郎をめぐる人びと
 武四郎のコレクション
 武四郎の生涯
 武四郎と尊王攘夷思想
 アイヌ民族へのまなざし
 武四郎と文人たち
 収集家 武四郎
 北海道人 松浦武四郎
 武四郎の天神信仰
 晩年の武四郎
 武四郎の蝦夷地探検
 幕末を生きた武四郎
 武四郎が読んだもの
 武四郎涅槃図の世界
 武四郎の歌
 文人たちとの交流
 武四郎とアイヌ民族
 武四郎が見た幕末・維新の日本
 武四郎が集めた本
 晩年の武四郎
 武四郎涅槃図
 武四郎と和歌
 武四郎と文人たち
 武四郎とアイヌ民族
 武四郎と幕末の志士たち
 武四郎の晩年
 北海道人 松浦武四郎の生涯
 武四郎と古物収集
 武四郎と和歌
 武四郎とアイヌ民族
 武四郎涅槃図の世界
 武四郎と文人たち

平成17年3月8日～17年6月5日
 平成17年6月7日～17年9月4日
 平成17年12月6日～18年3月5日
 平成18年3月7日～18年5月28日
 平成18年5月30日～18年8月20日
 平成18年8月22日～18年11月12日
 平成18年11月14日～19年2月4日
 平成19年2月6日～19年3月18日
 平成19年3月20日～19年6月10日
 平成19年6月12日～19年9月9日
 平成19年9月11日～19年11月25日
 平成19年11月27日～20年2月3日
 平成20年2月5日～20年4月27日
 平成20年4月29日～20年7月6日
 平成20年7月8日～20年8月31日
 平成20年10月21日～20年12月14日
 平成20年12月16日～21年2月8日
 平成21年2月10日～21年4月5日
 平成21年4月7日～21年5月31日
 平成21年6月2日～21年7月26日
 平成21年7月28日～21年9月23日
 平成21年9月25日～21年11月23日
 平成21年11月25日～22年1月17日
 平成22年1月19日～22年3月14日
 平成22年3月16日～22年5月9日
 平成22年5月11日～22年7月4日
 平成22年7月6日～22年8月29日
 平成22年8月31日～22年10月24日
 平成22年10月26日～22年12月23日
 平成22年12月25日～23年2月20日
 平成23年2月22日～23年4月17日
 平成23年4月19日～23年6月12日
 平成23年6月14日～23年8月7日
 平成23年8月9日～23年10月2日
 平成23年10月4日～23年11月27日
 平成23年11月29日～24年1月22日
 平成24年1月24日～24年3月20日
 平成24年3月22日～24年5月13日
 平成24年5月15日～24年7月16日
 平成24年7月18日～24年9月17日
 平成24年9月19日～24年11月18日
 平成24年11月20日～24年12月2日



北海道人樹下午睡図
(平成19年2月)



幕末を生きた武四郎
(平成21年9月)



武四郎が見た
幕末・維新の日本
(平成22年8月)



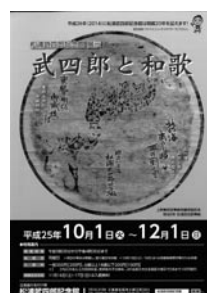
武四郎と幕末の志士
たち(平成23年10月)



武四郎涅槃図の世界
(平成24年9月)

武四郎と幕末の志士たち
 武四郎の晩年
 武四郎の古物収集
 武四郎とアイヌ民族
 武四郎と和歌
 武四郎をめぐる文人たち
 武四郎をめぐる志士たち
 武四郎の晩年
 北海道人 松浦武四郎の生涯

平成25年 1月22日～25年 3月20日
 平成25年 3月22日～25年 5月19日
 平成25年 5月21日～25年 7月21日
 平成25年 7月23日～25年 9月29日
 平成25年10月 1日～25年12月 1日
 平成25年12月 3日～26年 2月 2日
 平成26年 2月 4日～26年 4月 6日
 平成26年 4月 8日～26年 6月 1日
 平成26年 6月 3日～26年 8月 3日



武四郎と和歌
 (平成25年10月)

■特別展示

蝦夷地への誘い
 武四郎の見たアイヌ民具
 町の文化財
 松浦武四郎と白老
 武四郎の秘められた肖像—松浦一雄氏所蔵資料より

平成 7年 7月18日～ 7年 8月27日
 平成 8年 2月 6日～ 8年 4月28日
 平成 8年10月29日～ 9年 1月26日
 平成 9年 1月28日～ 9年 3月 9日



武四郎の見たアイヌ
 民具 (平成8年2月)

武四郎の蝦夷地の調査
 北海道人樹下午睡図とその周辺
 武四郎とめぐる人々
 武四郎の天神信仰
 武四郎と幕末・維新の人びと
 新獲開筈
 北海道人樹下午睡図
 松浦武四郎 八面六臂の大活躍
 AINU ART—風のかたりべ

平成11年 9月21日～11年11月21日
 平成12年 6月13日～12年 8月13日
 平成13年 1月30日～13年 3月18日
 平成13年 9月11日～13年12月16日
 平成14年 9月10日～14年12月 8日
 平成15年 9月 9日～15年12月 7日
 平成16年 9月 7日～16年12月 5日
 平成17年 9月 6日～17年12月 4日
 平成20年 9月 2日～20年10月19日
 平成24年12月 4日～25年 1月20日



松浦武四郎と白老
 (平成9年1月)

■企画展示

年6回(2ヶ月に1回)展示替えを行い、松浦武四郎に関係なく、バラエティに富んだ内容で展示を行ってきました。

私のコレクション展—引札に見る世界 平成 9年12月 2日～ 9年 1月18日
 私のコレクション展—珍しいものあれこれ

梅木孝昭パネル展
 日本全国のトンボを観る
 日本の蝶
 報道写真・サハリンの素顔
 「風のたより」知床探検写真展
 私のコレクション展—伊万里の美しさに惹かれて

平成10年 1月20日～10年 2月22日
 平成10年 4月 ～10年 6月21日
 平成10年 7月23日～10年 8月16日
 平成10年10月 7日～10年11月 3日
 平成10年11月 6日～10年12月20日
 平成10年12月23日～11年 3月22日
 平成11年 6月 1日～11年 7月11日



北海道人樹下午睡図と
 その周辺
 (平成13年1月)



武四郎とめぐる人々
 (平成13年9月)

私のコレクション展 愛でるかな タヌキたち—島田せいじ氏Collection

アイヌ刺繍文様の世界

松浦孫太翁と武四郎研究

アイヌ文様刺繍体験教室作品展

武四郎まつり写真コンテスト入賞作品展

北海道の歌碑と花の写真

伊勢型紙にみる美と技の世界

小野江コミセン サークル会員作品展

パッチワークの技と美

知床の自然写真展

武四郎まつり写真コンテスト入賞作品展

記念碑の写真と拓本展

武四郎研究の足跡

講座とサークル作品展

加藤一山翁作品展一年輪の美に魅せられた匠の技

稲生淳子遺作展

色々折り紙展

講座とサークル作品展

北海道と武四郎

武四郎まつり写真コンテスト入賞作品展

武四郎の神鏡をたずねて

ちぎり絵の世界

アイヌ文様のかたち—アイヌ文化体験教室作品展

武四郎まつり写真コンテスト入賞作品展

武四郎の足跡をたずねて

子どもの夢・アート展

アイヌ文化体験教室作品展

武四郎まつり写真コンテスト入賞作品展

大地の果てるところ 知床

ちぎり絵展

更岡日出子 和紙人形展

アイヌ文化体験教室作品展

武四郎まつり写真コンテスト入賞作品展

三重県立博物館移動展示「いにしへの風景～三重の旅といとなみ～」

同時開催 伊勢新聞社創刊130周年記念パネル展「伊勢新聞の歴史」

平成11年 7月15日～11年 9月15日

平成11年 9月21日～11年11月21日

平成11年11月30日～12年 2月20日

平成12年 2月23日～12年 3月31日

平成12年 4月 1日～12年 5月28日

平成12年 6月 ～12年 7月16日

平成12年 8月10日～12年10月29日

平成12年11月18日～13年 1月 7日

平成13年 1月10日～13年 2月11日

平成13年 2月15日～13年 4月 5日

平成13年 4月 7日～13年 6月24日

平成13年 7月 3日～13年 8月31日

平成13年10月 2日～13年11月25日

平成13年12月 4日～14年 1月20日

平成14年 2月 5日～14年 3月24日

平成14年 6月 4日～14年 7月28日

平成14年 8月 6日～14年 9月29日

平成14年12月 3日～15年 2月 2日

平成15年 2月 4日～15年 3月23日

平成15年 3月29日～15年 5月25日

平成15年 6月 3日～15年10月26日

平成15年11月 4日～16年 1月25日

平成16年 2月 3日～16年 3月21日

平成16年 3月27日～16年 5月23日

平成16年 6月 1日～16年 7月25日

平成16年12月16日～16年12月26日

平成17年 2月27日～17年 3月21日

平成17年 3月26日～17年 5月29日

平成17年 7月20日～17年 9月25日

平成17年11月 3日～17年11月30日

平成18年 1月14日～18年 2月12日

平成18年 2月18日～18年 3月19日

平成18年 3月25日～18年 5月28日

平成20年11月 1日～20年11月30日



武四郎の天神信仰 (平成14年9月)



武四郎と幕末・維新の人们 (平成15年9月)



新獲開発 (平成16年9月)



北海道人樹下午睡図 (平成17年9月)



松浦武四郎 八面六臂の活躍 (平成20年9月)



AINU ART—風のかたりべ (平成24年12月)

資料の利用状況

資料の閲覧・撮影・複写

平成17年度	8件
平成18年度	9件
平成19年度	5件
平成20年度	6件
平成21年度	7件
平成22年度	9件
平成23年度	10件
平成24年度	13件
平成25年度	15件



平成16年度 北海道立帯広美術館



平成24年度 INAXギャラリー

資料の掲載

平成17年度	14件
平成18年度	26件
平成19年度	31件
平成20年度	17件
平成21年度	22件
平成22年度	29件
平成23年度	23件
平成24年度	28件
平成25年度	29件



平成25年度 静嘉堂文庫美術館

資料の貸出

平成13年度	1 館	朝日町歴史博物館
平成16年度	2 館	北海道開拓記念館、北海道立帯広美術館
平成18年度	3 館	北九州市立いのちのたび博物館、北海道立近代美術館、千葉市美術館
平成19年度	5 館	名寄市北国博物館・士別市立博物館、美幌博物館、斎宮歴史博物館、田原市博物館
平成20年度	3 館	文化庁（東京国立博物館）、京都国立博物館、鈴鹿市考古博物館
平成21年度	1 館	松阪市歴史民俗資料館
平成22年度	4 館	I N A Xギャラリー大阪・名古屋・東京、朝日町歴史博物館
平成24年度	1 館	北海道立近代美術館
平成25年度	1 館	静嘉堂文庫美術館

団体見学・職員派遣

団体見学の件数

平成6年度	68件	6,683人
平成7年度	94件	6,653人
平成8年度	51件	4,141人
平成9年度	82件	3,036人
平成10年度	74件	5,052人
平成11年度	70件	4,158人
平成12年度	41件	4,370人
平成13年度	33件	5,641人
平成14年度	45件	5,812人
平成15年度	36件	1,287人
平成16年度	55件	1,668人
平成17年度	90件	2,510人
平成18年度	107件	2,712人
平成19年度	90件	2,725人
平成20年度	92件	3,066人
平成21年度	90件	3,507人
平成22年度	66件	3,295人
平成23年度	61件	2,988人
平成24年度	60件	3,842人
平成25年度	91件	4,040人

職員の派遣

平成15年度	7件	373人
平成16年度	15件	1,565人
平成17年度	19件	835人
平成18年度	18件	1,281人
平成19年度	22件	2,018人
平成20年度	31件	3,341人
平成21年度	35件	3,593人
平成22年度	30件	2,746人
平成23年度	30件	3,341人
平成24年度	27件	1,959人
平成25年度	21件	1,912人



松阪市立小野江小学校4年生
(平成15年度)



みえ長寿社会大学
(平成17年度)



北海道立帯広美術館
(平成16年度)



松阪市立天白小学校 アイヌ料理体験
(平成17年2月)

博物館実習

松浦武四郎記念館では、博物館活動の一環として学芸員資格取得を希望する学生に対し実習の機会を与え、博物館に関わる人材育成に資するとともに、博物館活動への理解の普及を図ることを目的に実習生を受け入れています。

実習の内容

- ①松浦武四郎記念館の概要と役割、施設の見学
- ②資料の収集・保存管理、資料の調査・研究、資料の展示・公開、博物館の教育や普及活動など、博物館活動に関わる講義と実習
- ③その他に松浦武四郎記念館が実習に必要と思われる内容

〔実習内容例〕 ※実習生の希望もできる限り考慮して行っています

- 松浦武四郎と松浦武四郎記念館 館内見学および施設概要と沿革
- 松浦武四郎記念館の活動 一資料の収集保管、調査研究、展示公開、教育普及一
- 資料の取り扱いと梱包 (実習)
- 資料写真の撮影 (実習)
- 文書・典籍資料の調査と整理 (実習)
- 絵画・工芸資料の調査と整理 (実習)
- くずし字の解読 (実習)
- 展示パネルの作成 (実習)
- 展示の企画・立案 (実習)
- 博物館のあり方に関する意見交換
- 実習を通しての質疑応答と実習日誌の整理

実習生の受け入れ状況 ※平成14年以降

平成14年度 2名

平成14年8月9日～13日 5日間 皇學館大学4年生、佛教大学大学院博士課程

平成15年度 1名

平成15年8月8日～10日、9月8日 4日間 皇學館大学4年生

平成16年度 1名

平成16年 皇學館大学4年生

平成20年度 1名

平成20年8月22日～26日 4日間 ※25日は休館 愛知淑徳大学4年生

平成23年度 1名

平成23年8月30日～9月1日、9月8日～9日 5日間 皇學館大学4年生

平成24年度 1名

平成24年8月28日～9月1日 5日間 三重大大学4年生

平成25年度 2名

平成25年8月6日～10日 5日間 三重大大学4年生

平成26年1月15日～19日 5日間 北海道大学大学院修士課程

松浦武四郎生誕190年等記念事業

平成20年（2008）2月に、松浦武四郎が生誕190年、没後120年、6回目の北海道調査から150年という記念すべき年を迎えることから、平成21年（2009）2月までの間に1年をかけて記念事業を行いました。

記念事業は、松浦武四郎生誕190年等記念事業実行委員会が中心となり、まだ武四郎のことを知らない方々に、武四郎の魅力を紹介していくことから始めました。そして、松浦武四郎の功績や人間性を知っていただくことで、武四郎を活かした個性豊かな地域づくり、武四郎に学んだ心豊かな人づくり、武四郎にちなんだ新しい文化の創造へと、今後も引き続き発展させていくことができるよう「下地づくり」と、10年先に迎える生誕200年に大きな花を咲かせることができるよう、「種をまく」ことに取り組みました。

◆オープニングイベント

平成20年2月23日（土） 松阪市民文化会館 来場者1,200人

オープニングイベントは、平成17年1月に市町合併により新しく生まれた「松阪市」において、武四郎のことを詳しく知らない方もたくさんおられることから、まずは広く知っていただくことを目的に、「武四郎を知る!」、「武四郎を語る!」、「武四郎を偲ぶ!」、という3つのテーマを設け、武四郎の魅力をわかりやすく紹介することに努めました。



◆記念シンポジウム「松浦武四郎とアイヌ民族」

平成20年3月23日（日） 松阪市産業振興センター 来場者200人

武四郎の生涯を語る上で、アイヌ民族との交流は重要なテーマです。そこで、記念事業の第2弾は、武四郎とアイヌ民族の交流について考えることをテーマとしたシンポジウムを開催しました。武四郎を通してアイヌ民族・文化を見ることに加えて、アイヌの人びとから見た松浦武四郎とはどんな存在であるかを、みなさんとともに考えました。



◆武四郎の足跡を訪ねてin北海道

平成20年10月15日（水）～18日（土） 3泊4日 35名参加

武四郎は幕末に6度にわたり北海道を調査し、アイヌ民族と深く交流した人物です。

記念事業では、6回目の調査から150年を迎えることにちなんで、武四郎が150年前に探検した6回目の調査ルートの中から北海道東部を訪ね、武四郎の足跡を現地で確かめるとともに、



阿寒湖や屈斜路湖でアイヌ民族のみなさんと交流しました。

参加されたみなさんは、6回目の調査の記録をもとに、武四郎がどのようなところを歩き、何を記録したか、さらにアイヌの人びととどのような交流をもったかなどを、実際に現地を訪れることで、武四郎をより身近に感じていただきました。

◆武四郎の足跡を訪ねてin大台ヶ原

平成20年10月29日(水) 41名参加

明治18年(1885)、68歳の武四郎は、妖怪が住む山と恐れられた大台ヶ原(三重と奈良の県境)を終焉の地と定め、70歳になる明治20年にかけて3度にわたり大台ヶ原に登り、地元の人びとの協力を得て、登山道を整備するなど、安心して登山ができるよう努めました。そこで、松阪で武四郎研究を行っている佐藤貞夫先生に、詳しく説明していただきながら大台ヶ原を訪ねる「武四郎の足跡を訪ねてin大台ヶ原」を企画しました。参加されたみなさんは、武四郎が建てた石標などを見て歩き、当時の武四郎の姿に思いをはせました。



◆伊勢街道ウォーク

平成20年11月9日(日) 参加者518名

武四郎は若い頃から全国各地を旅し、晩年には大台ヶ原に登山するなど、71歳の生涯はまさに旅そのものであったと言えます。1日に60km歩いたとも言われる武四郎が、旅を志すようになったきっかけは、伊勢神宮を目指した「おかげ参り」の旅人に影響を受けたことが大きかったと考えられます。

そこで、多くの旅人たちが行き交った伊勢街道をみなさんに歩いていただくことで、江戸時代の旅を感じていただこうと、近鉄ハイキングの協力により街道ウォークを実施しました。

参加されたみなさんは、近鉄伊勢中川駅～松ヶ崎駅までの約11kmを、江戸時代の旅と同じように伊勢街道を歩きながら、松浦武四郎記念館をはじめ、武四郎が手習いを習った真覚寺、市指定史跡「松浦武四郎誕生地」など、武四郎ゆかりの地や、格子戸の町並みが美しい市場庄地区を散策しました。



◆松浦武四郎を紹介する大型看板をリニューアル

松浦武四郎を広く全国に発信していく話題づくりとして、20年前に制作された武四郎を紹介する大きな看板をリニューアルすることになり、看板のデザインを全国に公募しました。

平成20年9月に記者発表を行い、全国に呼びかけたところ、北海道から福岡県までのさまざまな地域の方々から、44点のぼるデザインをご応募いただきました。



審査の結果、北海道札幌市在住の田中宏美さんの作品を最優秀作品とし、新しい看板のデザインとすることを決定し、平成21年2月4日(水)に新しい武四郎の看板が完成しました。

◆松浦武四郎研究成果速報会「武四郎研究の最前線」

平成21年2月11日(水) 祝日 松阪市産業振興センター 参加者160人

平成20年2月にスタートした松浦武四郎生誕190年等記念事業ですが、1年をかけておこなってきた記念事業の最後を飾ったのは、松浦武四郎に関する資料の研究成果速報会でした。松浦武四郎記念館では北海道開拓記念館に協力して、平成19年度から平成22年度までの4カ年計画で、日本学術振興会の科学研究費による助成を受けた武四郎研究を行いました。全国各地に眠る武四郎の資料を続々と調査して、まさに「武四郎研究の最前線」ともいえる研究成果を、いちはやくみなさまにお知らせすることができました。



◆記念事業 連続講座を開催

記念事業では、さまざまな顔をもつ松浦武四郎の魅力を、より多くの方々に知っていただくため、記念館職員が講師を務め、全9回にわたり連続講座を開催しました。



◆松阪歴史探訪 シリーズ「武四郎が行く！」

松阪市行政情報番組「iウェーブ まつさか」において、松浦武四郎の生涯を9回にわたって紹介する番組として、松阪歴史探訪 シリーズ「武四郎が行く！」を制作し、平成20年7月から平成21年3月にかけて放送されました。



◆松浦武四郎生誕190年等記念事業実行委員会

実行委員会では武四郎の魅力をできるだけ多くの方々に知っていただくために、毎月会議を開いて意見を出し合い、さまざまな企画を考えました。



記念事業でホームページも新たに！

松浦武四郎記念館を支える団体

武四郎を読む会

松浦武四郎に関する資料や武四郎と交友のあった人物の書簡などを読むことで、幕末から明治維新における武四郎の業績を学び、また、古文書の学習ができるようにと、平成14年4月に小野江地区コミュニティーセンターの講座として「武四郎を読む」を開講しました。佐藤貞夫氏に講師を依頼して月2回実施し、平成17年度からは自主サークルに移行し、「武四郎を読む会」として、今も活動を続けています。



武四郎を読む会

松浦武四郎記念館友の会

平成17年の市町合併により、新たな松阪市が誕生して以降、松浦武四郎記念館では、武四郎の生涯における出来事や業績を伝える講座を平成17年7月から毎月1回開催しており、多くの方に武四郎を知っていただき、素晴らしさを伝えることに努めてきました。

講座に参加する方の中から、講座の受付や資料を配るお手伝いをしていただくグループができるようになり、誰もが気軽に参加でき、記念館の活動を支援していこうと平成20年5月11日に設立総会を開き、友の会の活動がスタートしました。



松浦武四郎記念館友の会の設立を話し合う

松浦武四郎誕生地保存会

武四郎の実家である松浦武四郎誕生地は、松阪市の史跡に指定されており、武四郎のふるさとである北小野江、南小野江の両自治会長と、松浦武四郎記念館友の会の会長が発起人となり、地域住民が中心となって誕生地を大切に維持・管理していこうと、平成19年11月に設立されました。

これまでに誕生地の建物の風通しや、除草・清掃作業を中心に、春には花見会を開くなど、誕生地の保存と活用に協力していただいています。



松浦武四郎誕生地保存会による清掃活動

平成30年松浦武四郎生誕200年への会

松浦武四郎生誕190年等記念事業実行委員会のみなさんの中から、記念事業の終了後に生誕200年に向けた取り組みを始めていただいております。武四郎の足跡を訪ねて伊勢本街道を歩く行事や、北海道ツアーを企画するなど、武四郎と関わっていただける方を増やしてもらっています。

松浦武四郎記念館の出版物

機関紙 記念館だより「たけしろ」

平成6年12月に第1号を発行して以来、平成18年11月に第144号を発行するまで、毎月1回発行し、記念館の展示や行事のお知らせ、武四郎のさまざまな姿を紹介してきました。

※平成18年12月号から休刊しています。



出版書籍

松浦武四郎記念館が所蔵する資料の紹介や、アイヌ文化を紹介した蝦夷漫画の復刻、武四郎が著した蝦夷地調査に関する記録でまだ活字化されていない原稿など、佐々木利和氏、佐藤貞夫氏の多大なるご協力により、現代でも読むことができるよう、出版に努めてきました。

平成8年

2月 『松浦武四郎記念館 図録』



2月 『竹四郎日誌 按西扨従（一）～（三）』

松浦武四郎著／松浦孫太解説／佐藤貞夫編集



3月 『蝦夷漫画』（復刻版）

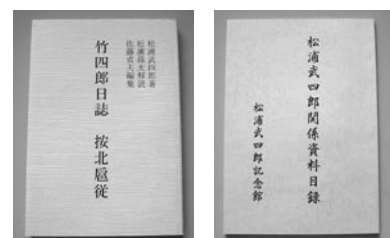
松浦武四郎著／佐々木利和解説



平成9年

3月 『竹四郎日誌 按北扨従』

松浦武四郎著／松浦孫太解説／佐藤貞夫編集



12月 『松浦武四郎関係資料目録』

（三重松浦家寄贈資料分）

平成13年

3月 『竹四郎日誌 按西（北海岸）按東扨従』

松浦武四郎著／松浦孫太解説／佐藤貞夫編集



平成15年

3月 『松浦武四郎 大台紀行集』

松浦武四郎著／松浦孫太解説／佐藤貞夫編集



平成16年

11月 『松浦武四郎関係歴史資料目録』

(国庫補助事業史料調査報告書)



平成19年

3月 『松浦武四郎 道を歩き、道を作る』

漫画：凛々



平成21年

3月 『重要文化財 松浦武四郎関係資料』

平成23年

1月 『壬午遊記』

松浦武四郎著／松浦孫太解説／佐藤貞夫編集



平成24年

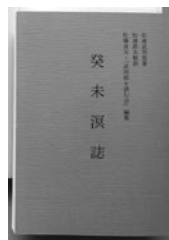
1月 『辛巳紀行』

松浦武四郎著／松浦孫太解説／佐藤貞夫編集

平成25年

3月 『癸未溟誌』

松浦武四郎著／松浦孫太解説／佐藤貞夫編集



平成26年

3月 『甲申日記』

松浦武四郎著／松浦孫太解説／佐藤貞夫編集



その他の出版物

平成15年 3月 オリジナル一筆箋（6種類）

平成18年 3月 オリジナル絵葉書（8種類）

平成18年 9月 オリジナル野帳（6種類）

平成24年 3月 オリジナル一筆箋 ※リニューアル（3種類）



松阪市松浦武四郎記念館運営審議会

松浦武四郎記念館では平成6年の開館以来、運営審議会を年2回開いており、東京松浦家、三重松浦家をはじめ地域の代表や学識経験者のみなさんに、記念館の運営報告や運営予定についてご審議いただき、よりよい博物館運営に努めています。



平成16年度第2回 平成17年3月26日



平成21年度第2回 平成22年3月23日

松阪市松浦武四郎誕生地整備検討委員会

松阪市が史跡に指定している松浦武四郎誕生地について、平成30年に迎える武四郎の生誕200年に公開できるよう取り組んでいます。

平成19年（2007）には整備検討委員会を設置し、学識経験者や地元自治会の代表と保存整備や活用方法について検討しています。



平成21年度第1回 平成21年10月27日



平成23年度 平成23年11月30日

松浦武四郎記念館(小野江コミュニティセンター)歴代職員

館 長

平成6年7月3日～平成13年5月31日

鈴木 恒雄

平成13年6月1日～平成14年3月31日

館長不在

平成14年4月1日～平成16年12月31日

川瀬 孜

※三雲町教育委員会教育長兼務

平成17年1月1日～平成17年3月31日

仲村 隆彦

※松阪市教育委員会教育次長兼務

平成17年4月1日～平成21年3月31日

高瀬 英雄

平成21年4月1日～平成22年3月31日

中西 明

平成22年4月1日～平成24年3月31日

宮本 正道

平成24年4月1日～現 職

中野 恭

職 員 (学芸員)

平成6年7月3日～平成13年3月31日

武馬 利江

平成13年4月1日～現 職

山本 命

事務補助員

平成13年6月1日～現 職

田島 映子

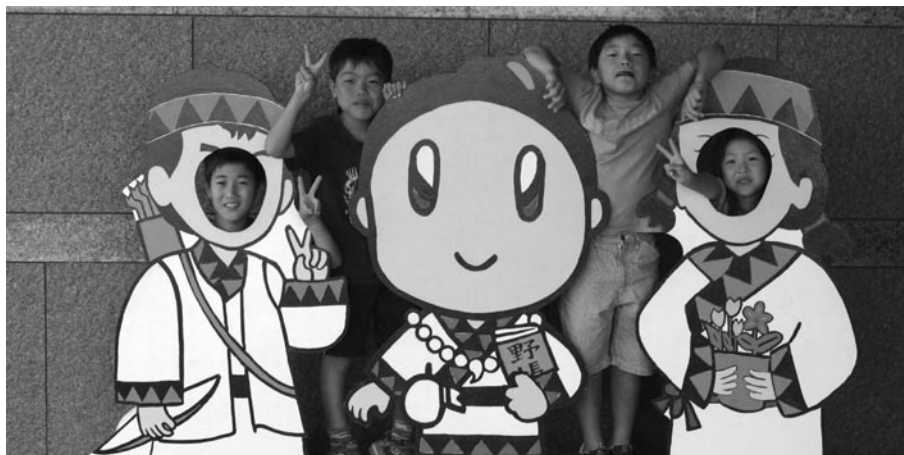
公民館主事

平成6年7月3日～平成20年3月21日

枝川 ひとみ

平成20年3月22日～現 職

齋藤 佳代子



たけちゃんの顔出しパネルで遊ぶ子どもたち



現在の松浦武四郎記念館

開館20年記念誌
松浦武四郎記念館(小野江コミュニティセンター)
20年のあゆみ

発行日	平成26年(2014)7月4日
編集・発行	松浦武四郎記念館(小野江コミュニティセンター) 〒515-2109 三重県松阪市小野江町383番地
印刷	紙小津産業株式会社 〒515-0019 三重県松阪市中央町384-1 OZビルシエテ5F